橋側歩道橋に関する
調査表記入マニュアル

〔Ｄ０２０〕　橋 側 歩 道 橋 基 本

この調査表は、橋側歩道橋に関する基本的データを登録するためのものである。なお、ここで取り扱う橋側歩道橋とは本線橋と分離構造の場合で、本線橋の架設後においてブラケットおよび橋台・橋脚の張り出し等で、歩道添架がなされ、本線橋と一体構造の場合は取り扱わない。

１．一般的注意事項

（１）データは次の単位で作成する。

○　橋側歩道橋種別毎に供用開始された１橋単位で作成する。

○　橋側歩道橋が１箇所において上下線等、分離されて架橋されている場合は分離されている橋側歩道橋毎に１橋として取扱う。

○　高架橋で２市区町村以上に跨って存在する場合は、桁単位で市区町村別に区分し、１市区町村毎に１データとして作成する。

（２）ここで取扱う橋側歩道橋とは河川、湖沼、海峡、運河などの水面を越えるため、あるいは水のない谷、凹地または、建築物や他の交通路等を越えるために桁下に空間を残し、架設される道路構造物で橋長２．０ｍ以上のものをいう。（出典：道路施設現況調査提要）

（３）橋側歩道橋に関する幅員構成については「D021橋側歩道橋幅員構成」にて作成する。

（４）橋側歩道橋に関する高欄・防護柵については「D022橋側歩道橋高欄防護柵」にて作成する。

（５）橋側歩道橋に関する架設位置の交差条件については「D023橋側歩道橋交差状況」にて作成する。

（６）橋側歩道橋に関する添架物については「D024橋側歩道橋添架物」にて作成する。

（７）橋側歩道橋に関する上部工構造体については「D025橋側歩道橋上部工」にて作成する。

（８）橋側歩道橋に関する下部工については「D026橋側歩道橋下部工」にて作成する。

（９）橋側歩道橋に関する支間及び支承構造については「D027橋側歩道橋径間」にて作成する。

(10) 橋側歩道橋に関する写真・図面類については「D028橋側歩道橋図面」にて作成する。

(11) 橋側歩道橋に関する再塗装（塗装履歴）については「D029橋側歩道橋塗装歴」にて作成する。

(12) 橋側歩道橋に関する補修・補強及び改良については「D02A橋側歩道橋補修歴」にて作成する。

(13) 橋側歩道橋に関する点検・調査については「D02B橋側歩道橋点検歴」にて作成する。

(14) 橋側歩道橋に関する部材毎に行った点検・調査については「D02C橋側歩道橋点検詳細歴」にて作成する。

(15) 橋側歩道橋に関する部材毎に行った補修・補強については「D02D橋側歩道橋点検補修」にて作成する。

２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｇ－１）現旧区分

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

（Ｊ）整理番号３

（Ｎ）補助番号

上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｇ－１）、（Ｈ）、（Ｉ）、（Ｊ）、（Ｎ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（Ｐ）橋梁コード

橋梁コードについては以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Q）分割区分Ｃ：◆

該当する橋側歩道橋の分割区分について、該当するコードを記入する。

区　　分		コード
歩行者自転車専用歩道橋	上り側	3
歩行者専用歩道橋	上り側	4
自転車専用橋	上り側	5
歩行者自転車専用歩道橋	下り側	6
歩行者専用歩道橋	下り側	7
自転車専用橋	下り側	8

＊　コード０、１、２は欠番とする。

（U）施設完成年度

施設が完成した年度を記入する。（年は和暦を記入）

年号コードについては、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（記入例）　昭和６１年　　―――>　　３６１
↑
年号コード（３：昭和）

（V）施設改修年度：◆

施設を改修した年度を記入する。（年は和暦を記入）

年号コードについては、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。施設の改修がなされていない場合は‘＊’を記入する。

（記入例）　平成　５年　　―――>　　４０５
↑
年号コード（４：平成）

(W) 名称：◆

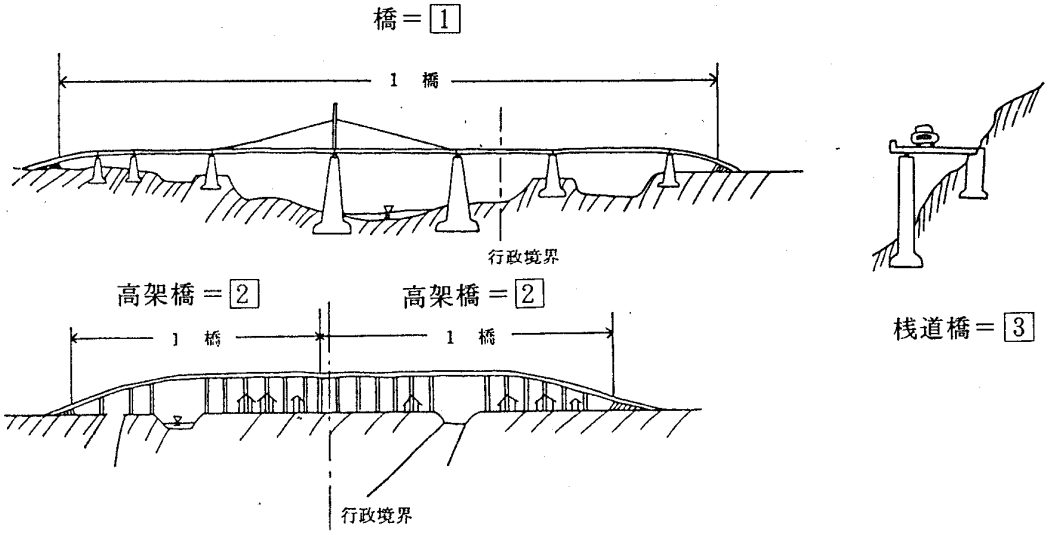
橋側歩道橋名称について、２０文字以内の日本語（漢字、ひらがな、カタカナ、英数字）で記入する。

（X）橋梁種別Ｃ：◆

橋梁種別について、該当するコードを記入する。（出典：道路施設現況調査提要）

区　　分	コード
橋	1
高　架　橋	2
桟　道　橋	3

注）



注）１．橋
　　河川，湖沼，海峡，運河，谷等の水面（出水時に水面となる場合を含む。）を越えることを主たる目的とした橋梁をいう。
２．高架橋
　　１．の橋及び桟道橋以外の橋梁をいい、跨道橋，跨線橋を含む。
３．桟道橋
　　斜面の中腹に棚状の橋梁構造形式で設けられた道路で橋梁部分が横断面的に車道まで及んでいるものをいう。

(AB) 架設竣工年：◆

架設竣工年について記入する。（年は西暦を記入）

（記入例）　昭和４８年　　―――>　　１９７３

(AE) 適用示方書Ｃ：◆

設計または施工に用いた代表的な適用示方書について、該当するコードを記入する。

適　用　示　方　書　類	発行年	コード
道路構造に関する細則案	大正15年	１１０
鋼道路橋設計示方書案、鋼道路橋製作示方書案	昭和14年	１１１
鋼道路橋設計示方書	昭和31年	１１２
〃　（改訂）	昭和39年	１１３
道路橋示方書　Ⅰ　共通編　Ⅱ　鋼橋編	昭和47年	１４１
〃　〃　Ⅰ　共通編　Ⅲ　コンクリート橋編	昭和53年	１４３
〃　〃　Ⅰ　共通編　Ⅱ　鋼橋編（改訂）	昭和55年	１４５
〃　〃　Ⅰ　共通編　Ⅳ　下部構造編	昭和55年	１４５
〃　〃　Ⅴ　耐震設計編	昭和55年	１４５
道路橋示方書　Ⅰ　共通編　Ⅱ　鋼橋編	平成 2年	１９０
（平成元年度）Ⅰ　共通編　Ⅲ　コンクリート橋編	平成 2年	１９０
〃　Ⅰ　共通編　Ⅳ　下部構造編	平成 2年	１９０
〃　Ⅴ　耐震設計編	平成 2年	１９０
道路橋示方書　Ⅰ　共通編　Ⅱ　鋼橋編	平成 6年	１６１
（平成６年度）Ⅰ　共通編　Ⅲ　コンクリート橋編	平成 6年	１６１
〃　Ⅰ　共通編　Ⅳ　下部構造編	平成 6年	１６１
道路橋示方書　Ⅰ　共通編　Ⅱ　鋼橋編	平成 8年	１６５
（平成８年度）Ⅰ　共通編　Ⅲ　コンクリート橋編	平成 8年	１６５
〃　Ⅰ　共通編　Ⅳ　下部構造編	平成 8年	１６５
〃　Ⅴ　耐震設計編	平成 8年	１６５
道路橋示方書　Ⅰ　共通編　Ⅱ　鋼橋編	平成14年	１６６
（平成14年度）Ⅰ　共通編　Ⅲ　コンクリート橋編	平成14年	１６６
〃　Ⅰ　共通編　Ⅳ　下部構造編	平成14年	１６６
〃　Ⅴ　耐震設計編	平成14年	１６６
鋼道路橋の一方鉄筋コンクリート床版の配力鉄筋の設計について（局長通達）	昭和42年	１８１
特定の路線にかかる橋、高架の道路等の技術水準について（局長通達）	昭和48年	１８５
適用示方書類によらないで設計又は施工されたもの（例：木橋、つり橋等橋格のないもの等）について		９９９

＊旧橋を撤去せず部分的に架替等を行った場合の記入は、当初架設時のものを記入する。

(AG) 総経間数：◆

対象となる橋側歩道橋を構成している径間数を記入する。

（記入例）　総径間数　Ｎ＝１２　　―――>　　１２

(AJ) 昇降形式Ｃ

昇降形式について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
平　面　式	1
階　段　式	2
押　上　式	3
スロープ式	4
各 種 併 用	8
そ　の　他	9

(AL) 事業区分Ｃ：◆

事業区分について、該当するコードを記入する。

（出典：耐震点検調査）

区　　分	コード
一般道路	1
街　　路	2
有料道路	3

注）

注）街路とは、都市計画街路の道路をいう。

(AO) 百米標自（km）

該当する区間の距離標（百米標）を記入する。（パラペット前面の位置とする。ただし、高架橋については、市区町村界を考慮すること。）記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

(AP) 距離自（m）

該当する区間の距離標（百米標）からの距離を記入する。（パラペット前面の位置とする。ただし、高架橋については、市区町村界を考慮すること。）記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

(AQ) 百米標至（km）

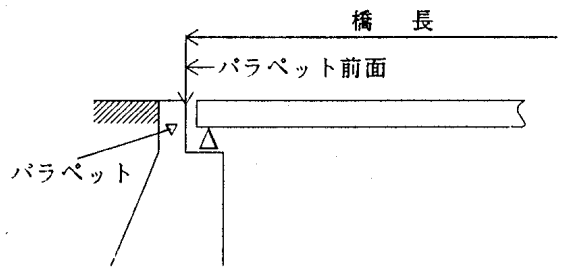
該当する区間の距離標（百米標）を記入する。（パラペット前面の位置とする。ただし、高架橋については、市区町村界を考慮すること。）記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

(AR) 距離至（m）

該当する区間の距離標（百米標）からの距離を記入する。（パラペット前面の位置とする。ただし、高架橋については、市区町村界を考慮すること。）記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

(AS) 橋長（m）：◆

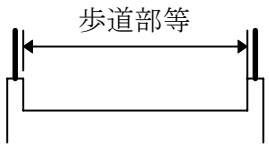
橋台間のパラペット前面の距離を、小数点以下２位まで記入する。ただし、高架橋については、市区町村界を考慮すること。



（記入例）　橋長　１０５．１５５（m）　―――>　　１０５．１６

(AT) 橋面積（㎡）：◆

橋側歩道橋の面積（地覆の内側間（歩道部）×橋長）を、小数点以下１位まで記入する。



（記入例）　橋面積　Ａ＝６４５．１６㎡　―――>　　６４５．２

(AU) 平面形状Ｃ：◆

１橋全体としての平面形状について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
直橋（直角橋）	1
斜　　橋	2
曲　線　橋	3
直橋＋斜橋	4
直橋＋曲線橋	5
斜橋＋曲線橋	6
そ　の　他	9

(AY) 落下物防止柵高さ（m）：◆

落下物防止柵の高さの最大値を、小数点以下２位まで記入する。（落下物防止柵がない場合は ‘＊’を記入）

（記入例）　落下物防止柵の高さ（最大）　Ｈ＝２．５０ｍ　――＞　　２．５０

(AZ) 落下物防止柵延長（m）：◆

落下物防止柵の延長を、小数点以下２位まで記入する。（落下物防止柵がない場合は‘＊’を記入）

（記入例）　落下物防止柵の総延長　Ｌ＝３３０．７０ｍ　――＞　　３３０．７０

(BG) 点検施設Ｃ：◆

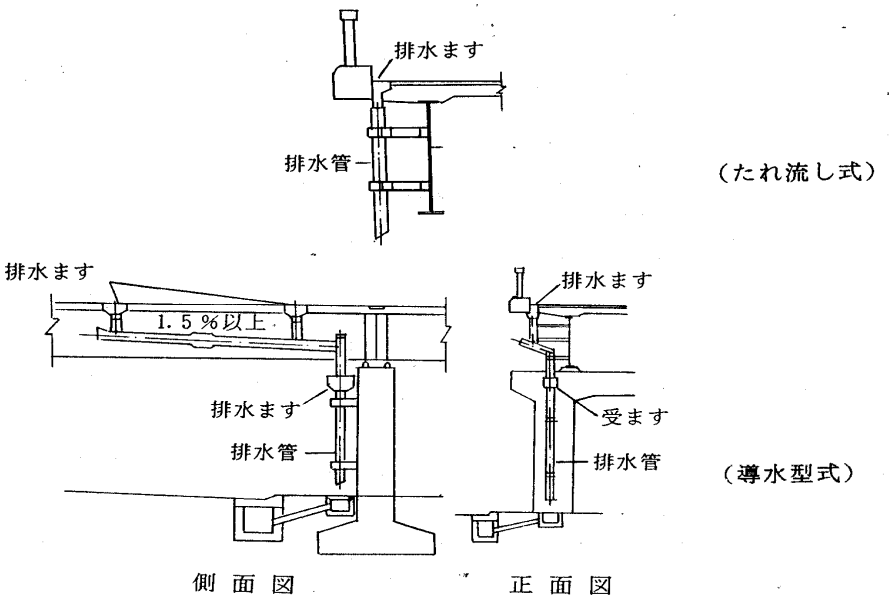
橋側歩道橋の点検施設について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
点検施設　無し	0
点検施設　有り	
検査路のみ	1
検査路以外の点検施設	2
検査路とその他の点検施設	3

(BI) 排水施設Ｃ：◆

排水施設の型式について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
排水施設無し	0
たれ流し型式	1
導 水 型 式	2
そ　の　他	9



(BK) 床版防水種別Ｃ

床版防水工の種別について、該当するコードを記入する。（施工していない場合は‘＊’を記入）

区　　分	コード
塗 膜 系	1
シート系	2
舗 装 系	3
そ の 他	9

(BM) 床版防水範囲Ｃ

床版防水工の範囲について、該当するコードを記入する。（施工していない場合は‘＊’を記入）

区　　分	コード
橋 面 全 面	1
その他部分的	9

※）コード２は欠番とする。

(BR) 水平震度

設計水平震度（Ｋｈ）を、小数点以下２位まで記入する。

（記入例）　Ｋｈ＝０．２０　―――＞　０．２０

(BS) 設計活荷重Ｃ

該当なしとして‘＊’を記入する。

(CK) 通行制限Ｃ

(CV) 起点側市区町村Ｃ：◆

該当する橋側歩道橋区間の起点側の市区町村名のコードを記入する。使用するコードは、「全国市町村要覧」を参照し、「都道府県市区町村コード」を記入する。

（記入例）　茨城県鹿島郡旭村の場合　―――＞　コード：０８４０１
（検査数字は含まない）

(CX) 起点側検査数字：◆

上記の市区町村に対し、「全国市町村要覧」を参照し、コード末尾の□内の数字を記入する。

(CY) 起点側所在地：◆

該当する橋側歩道橋区間の起点側の所在地（字番地まで）について、３０文字以内の日本語で記入する。

(CZ) 終点側市区町村Ｃ：◆

該当する橋側歩道橋区間の終点側の市区町村名のコードを記入する。使用するコードは、「全国市町村要覧」を参照し、「都道府県市区町村コード」を記入する。なお、起点側と同一の所在地の場合は‘＊’を記入する。

（記入例）　茨城県鹿島郡大洋村の場合　―――＞　コード：０８４０３
（検査数字は含まない）

(DB) 終点側検査数字：◆

上記の市区町村に対し、「全国市町村要覧」を参照し、コード末尾の□内の数字を記入する。

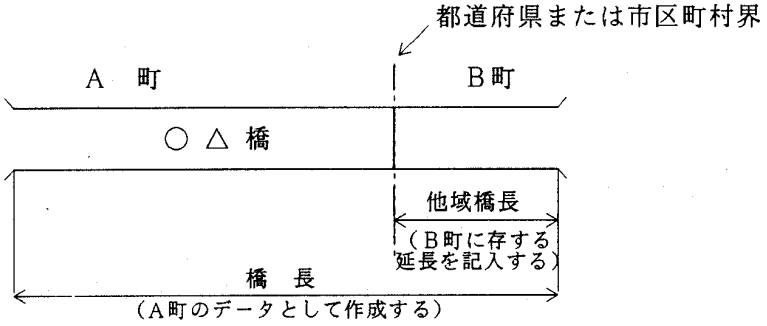
(DC) 終点側所在地：◆

橋側歩道橋終点側の所在地（字番地まで）について、３０文字以内の日本語で記入する。なお、起点側と同一の所在地の場合は‘＊’を記入する。

(DD) 他域橋長（m）：◆

該当橋側歩道橋が市区町村界（都道府県界と重複している場合も同様に取扱う）に架設されている場合のみ他域延長について、小数点以下２位まで記入する。他域橋長のない場合は‘＊’を記入する。

○　橋長と他域橋長との関係



(DE) 起終点区分Ｃ：◆

(DD) において他域とされた地域が (CV) 起点側市区町村Ｃ、(CZ) 終点側市区町村Ｃにおける所在地のどちらに位置しているか、他域橋長の存する地域について、該当するコードを記入する。他域橋長のない場合は‘＊’を記入する。

区　　分	コード
起　点　側	1
終　点　側	2

(DG) 橋梁接続起点側市区町村Ｃ：◆

２以上の市区町村にわたって設けられている高架橋の場合において、該当する高架橋以外の高架部分について起点側の市区町村名のコードを記入する。なお、「全国市町村要覧」を参照し、「都道府県市区町村コード」を記入する。（橋梁接続がない場合は‘＊’を記入）

(DI) 橋梁接続起点側検査数字：◆

上記の市区町村に対し、「全国市町村要覧」を参照し、コード末尾の□内の数字を記入する。（橋梁接続がない場合は‘＊’を記入）

(DJ) 橋梁接続起点側橋梁種別Ｃ：◆

橋梁接続の起点側の橋梁種別について、記入事項（X）橋梁種別Ｃを参照し、該当するコードを記入する。（橋梁接続がない場合は‘＊’を記入）

(DN) 橋梁接続起点側橋梁コード：◆

橋梁接続の起点側の橋梁について、記入事項（H）整理番号１を参照し、該当する橋梁コードを記入する。（橋梁接続がない場合は‘＊’を記入）

(DO) 橋梁接続起点側分割番号：◆

橋梁接続の起点側の橋梁分割について、記入事項（H）整理番号１を参照し、該当する分割番号を記入する。（橋梁接続がない場合は‘＊’を記入）

(DP) 橋梁接続終点側市区町村Ｃ：◆

(DG) 橋梁接続起点側市区町村Ｃと同様に、終点側を記入する。

(DR) 橋梁接続終点側検査数字：◆

(DI) 橋梁接続起点側検査数字と同様に、終点側を記入する。

(DS) 橋梁接続終点側橋梁種別Ｃ：◆

(DJ) 橋梁接続終点側橋梁種別Ｃと同様に、終点側を記入する。

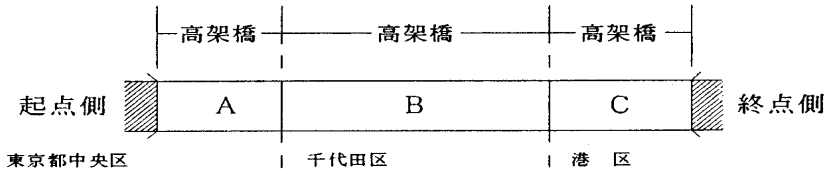
(DW) 橋梁接続終点側橋梁コード：◆

(DN) 橋梁接続起点側橋梁コードと同様に、終点側を記入する。

(DX) 橋梁接続終点側分割番号：◆

(DO) 橋梁接続起点側分割番号と同様に、終点側を記入する。

〔路線名：０００１〕



	A：中央区	B：千代田区	C：港　区
市区町村C	１３１０２	１３１０１	１３１０３
検査数字	4	6	2
橋梁種別C	4	4	4
橋梁コード	０００１	０００２	０００３

（記入例－１）該当する高架橋がＢの場合、起点側Ａ、終点側Ｃについて、各項目のデータを記入する。

（記入例－２）該当する高架橋がＡの場合、高架Ｂ（終点側として）について、各項目のデータを記入する。

(DY) 塩害地域区分Ｃ

塩害地域区分について、該当するコードを記入する。

（出典：塩害対策指針の対策区分）

地域区分	地　域	海岸線からの距離	対策区分	影響度合い	コード
A	沖縄県	海上部及び海岸線から100mまで	S	影響が激しい	ＡＳ
		100mをこえて300mまで	Ⅰ	影響を受ける	Ａ１
		上記以外の範囲	Ⅱ		Ａ２
B	下表に示す地域	海上部及び海岸線から100mまで	S	影響が激しい	ＢＳ
		100mをこえて300mまで	Ⅰ	影響を受ける	Ｂ１
		300mをこえて500mまで	Ⅱ		Ｂ２
		500mをこえて700mまで	Ⅲ		Ｂ３
C	上記以外の地域	海上部及び海岸線から20mまで	S	影響が激しい	ＣＳ
		20mをこえて50mまで	Ⅰ	影響を受ける	Ｃ１
		50mをこえて100mまで	Ⅱ		Ｃ２
		100mをこえて200mまで	Ⅲ		Ｃ３
D		上　記　以　外	なし		Ｄ１

地域区分Ｂの対象地域表

北海道のうち、宗谷支庁の札文町・利尻富士町・利尻町・稚内市・猿払市・豊富町、留萌支庁、石狩支庁、後志支庁、檜山支庁、渡島支庁の松前町 青森県のうち、蟹田町、今別町、平舘村、三厩村（東津軽郡）、北津軽郡、西津軽郡、大間町、佐井村、脇野沢村（下北郡） 秋田県、山形県、新潟県、富山県、石川県、福井県

(EA) 塩害地域距離（km）

塩害地域区分に対する海岸線からの距離を、小数点以下１位まで記入する。ただし、海岸線からの距離が１００km以上のときは、記入の必要がないため‘＊’を記入。

（記入例）　海岸線からの距離　　Ｄ＝２５．４６km　　―――>　　２５．５

(ED) 照明有無Ｃ

照明の有無について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
無　　し	0
有　　り	1

(EW) 消雪パイプ有無Ｃ

消雪パイプの有無について、該当するコードを記入する。

(ED) 照明有無Ｃのコード表と同様。

(EY) ロードヒート有無Ｃ

ロードヒーティングの有無について、該当するコードを記入する。

(ED) 照明有無Ｃのコード表と同様。

〔Ｄ０２１〕　橋側歩道橋幅員構成

この調査表は、橋側歩道橋の幅員構成に関するデータを登録するためのものである。

１．一般的注意事項

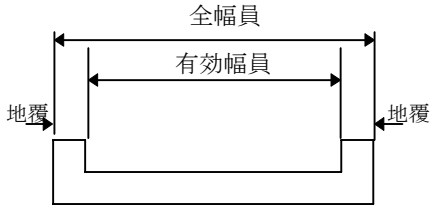
（１）データは次の単位で作成する。

○　「D020橋側歩道橋基本」の作成単位毎とする。

○　供用開始毎に作成する。

（２）幅員が異なる場合は、その代表値（標準幅員または最大延長に対する幅員）を記入する。

＜幅員構成＞



２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｇ－１）現旧区分

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

（Ｊ）整理番号３

（Ｎ）補助番号

上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｇ－１）、（Ｈ）、

（Ｉ）、（Ｊ）、（Ｎ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（Ｐ）橋梁コード

橋梁コードについては以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Ｑ）分割区分Ｃ

該当する橋梁の親表（「D010橋梁基本」）で記入した分割区分コードを記入する。

（Ｑ－１）分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Ｔ）全幅員（ｍ）：◆

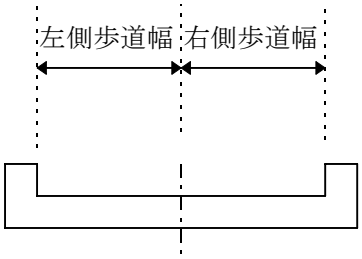
全幅員について、小数点以下２位まで記入する。

（Ｕ）有効幅員（ｍ）：◆

有効幅員について、小数点以下２位まで記入する。

（Ｘ）左側車線歩道幅（ｍ）：◆

起点から見て歩道中心より、左側の歩道幅について、小数点以下２位まで記入する。



(AG) 右側車線歩道幅（ｍ）：◆

起点から見て歩道中心より、右側の歩道幅について、小数点以下２位まで記入する。

〔Ｄ０２２〕 橋側歩道橋高欄防護柵

この調査表は、橋側歩道橋の高欄と防護柵に関するデータを登録するためのものである。

１．一般的注意事項

（１）データは次の単位で作成する。

○　「D020橋側歩道橋基本」の作成単位毎とする。

○　高欄・防護柵が設置されている位置毎とする。　注）

注）ここで対象とする高欄と防護柵の定義は、「防護柵設置要領・資料集，昭和６１年７月，（社）日本道路協会」によるものとする。

・高欄とは、歩行者及び自転車の橋梁外への転落を防止することを目的として設置される防護柵であり、Ｐ種の転落防止柵の一種であると考えられることができる。

（２）防護柵の諸元については〔Ｅ０１０〕防護柵の調査表記入マニュアル側でデータを作成する。

２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｇ－１）現旧区分

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

（Ｊ）整理番号３

（Ｎ）補助番号

上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｇ－１）、（Ｈ）、

（Ｉ）、（Ｊ）、（Ｎ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（Ｐ）橋梁コード

橋梁コードについては以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Ｑ）分割区分Ｃ

該当する橋梁の親表（「D010橋梁基本」）で記入した分割区分コードを記入する。

（Ｑ－１）分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Ｓ）高欄防護柵設置場所Ｃ

高欄、防護柵の設置場所について、該当するコードを記入する。（起点から見て左側・右側とする）

区　　分	コード
左　　歩道端	2
右　　歩道端	5

＊　コード１、３、４は欠番とする。

（Ｕ）高欄防護柵別Ｃ

高欄、防護柵の別について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
高　　欄	1
防 護 柵	2

(W) 高欄防護柵材質材料Ｃ：◆

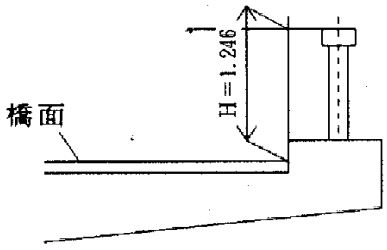
高欄の材質（材料）について、該当するコードを記入する。（防護柵の場合は‘＊’を記入する。〔Ｅ０１０〕防護柵側でデータの作成を行う。）

区　　分	コード
ア　ル　ミ	1

区　　分	コード
アルミ鋳造	2
鋼　　製	3
鋼　鋳　造	4
コンクリート	5
そ　の　他	9

(AC) 高欄防護柵高さ（m）：◆

高欄の橋面からの高さを、小数点以下２位まで記入する。（防護柵の場合は‘＊’を記入する。〔Ｅ０１０〕防護柵側でデータの作成を行う。）



高　欄

〔Ｄ０２３〕　橋 側 歩 道 橋 交 差 状 況

この調査表は、橋側歩道橋の架設位置の交差条件に関するデータを登録するためのものである。

１．一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

○　「D020橋側歩道橋基本」の作成単位毎とする。

○　交差条件について協議した機関毎とする。

○　交差箇所毎とする。

２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｇ－１）現旧区分

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｇ－１）、（Ｈ）、（Ｉ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1.共通注意事項」を参照のこと。

（Ｐ）橋梁コード

橋梁コードについては以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Q）分割区分C

該当する橋梁の親表（「D010橋梁基本」）で記入した分割区分コードを記入する。

（Q－１）分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（S）架橋状況C（交差条件）

該当する橋側歩道橋の架橋状況について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード	区　　分	コード
道路の上にある	1	水域（河川・開水路・湖沼）	5
道路の下にある	2	海　域	6
鉄道の上にある	3	田　畑	8
鉄道の下にある	4	その他(砂防協議等)	7

（U）協議有無C

協議の有無について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
協議無し	0
協議有り	1

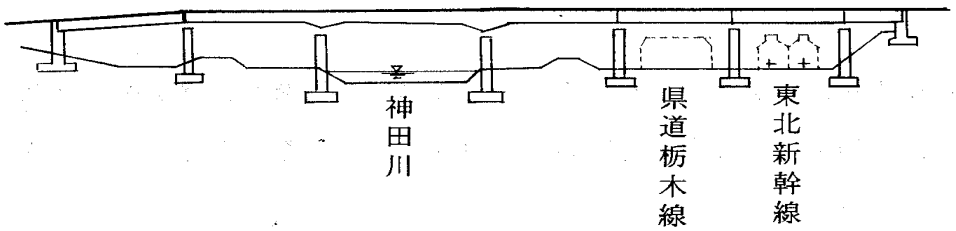
（W）交差物名称

交差物件名称を、１０文字以内の日本語で記入する。（記入事項（X）協議機関の記入例参照）

（X）協議機関

交差物に関して協議した機関名を、１０文字以内の日本語で記入する。

（記入例）



交差物名称	管理者・協議機関
神田川	池田土木事務所
県道栃木線	栃木県道路課
東北新幹線	東日本旅客鉄道（株）

〔Ｄ０２４〕　橋 側 歩 道 橋 添 架 物

この調査表は、橋側歩道橋の添架物に関するデータを登録するためのものである。

１．一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

○　「D020橋側歩道橋基本」の作成単位毎とする。

○　添架物毎に作成する。

○　形状、寸法単位毎に作成する。

２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｇ－１）現旧区分

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

（Ｊ）整理番号３

（Ｎ）補助番号

上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｇ－１）、（Ｈ）、（Ｉ）、（Ｊ）、（Ｎ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（Ｐ）橋梁コード

橋梁コードについては以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Q）分割区分Ｃ

該当する橋梁の親表（「D010橋梁基本」）で記入した分割区分コードを記入する。

（Q－１）分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（S）添架物区分Ｃ：◆

添架物区分について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
自管理添架物	1
占用添架物	2

（U）添架物種別Ｃ：◆

添架物種別について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード	区　　分	コード
上　水　道	１１	ガ　　ス	４１
工業用水道	１２	道路情報板	５１
農業用水	１３	道路標識	５２
下　水　道	１４	通信ケーブル	５３
電　　力	２１	Ｉ・Ｔ・Ｖ	５４
電　　話	３１	そ　の　他	９９

(W) 添架物寸法：◆

○　電力及び電話については、設置する条数と段数を記入する。

○　道路情報板・道路標識及びＩＴＶの場合は、該当なしとして‘＊’を記入する。

○　これら以外については径（φ）を（㎜）単位で記入する。

（記入例－１）　「上水道　φ200 」の場合　―――＞　　２００

（記入例－２）　「電力　３条５段」の場合　―――＞　０３０５

（X）添架物重量（kgf／m）：◆

○　添架物の単位長さ当たりの重量を記入する。

○　道路情報板・道路標識及びＩＴＶの場合は、該当なしとして‘＊’を記入する。

（Ｙ）添架物管理者名：◆

添架物の管理者名を、１０文字以内の日本語で記入する。

（Ｚ）占用物件本数：◆（自管理添架物も含む）

添架物種別毎の物件数を記入する。なお、電力等の場合は物件（形状○条○段等）の総本数を記入する。

〔Ｄ０２５〕　橋 側 歩 道 橋 上 部 工

この調査表は、橋側歩道橋の上部工構造体に関するデータを登録するためのものである。

１．一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

○　「D020橋側歩道橋基本」の作成単位毎とする。

○　上部工構造体毎とする。

２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｇ－１）現旧区分

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

（Ｊ）整理番号３

（Ｎ）補助番号

上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｇ－１）、（Ｈ）、（Ｉ）、（Ｊ）、（Ｎ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（Ｐ）橋梁コード

橋梁コードについては以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Q）分割区分C

該当する橋梁の親表（「D010橋梁基本」）で記入した分割区分コードを記入する。

（Q－1）分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

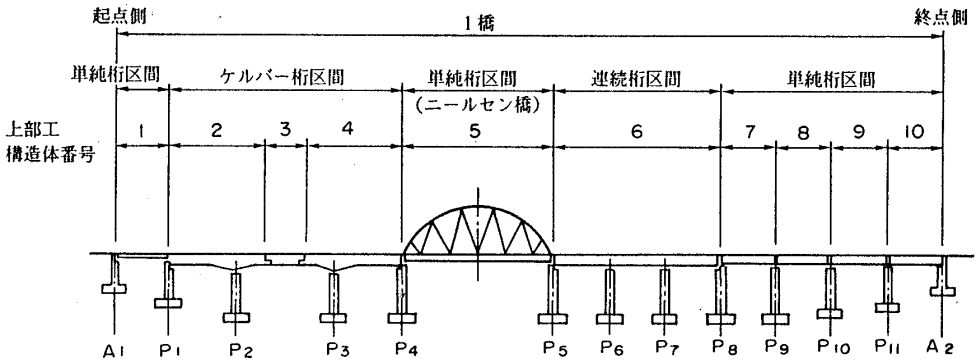
・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（S）構造体番号：◆

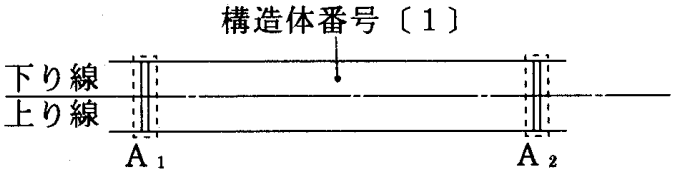
上部工の構造体は、「D020橋側歩道橋基本」の作成単位毎に構造形式が異なる単位毎で、かつ目地により縁が切れたら別のものと考える。従って、単純桁は起点側から連数分作成する。

拡幅に伴う主桁増設の場合、増設部分は別の構造体とする。なお、構造体番号は一橋の中で重複してはならない。

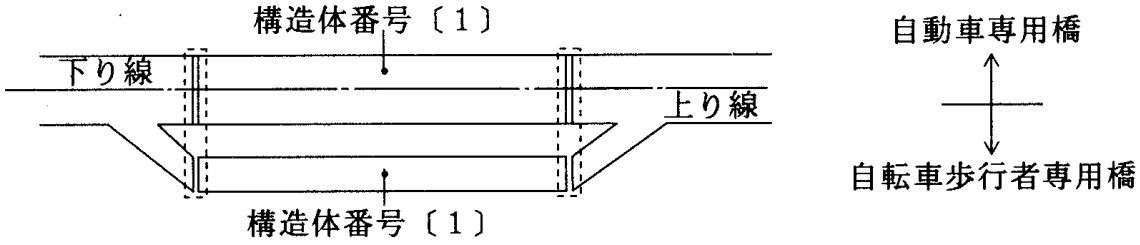


図－1　上部工構造体番号付与の例

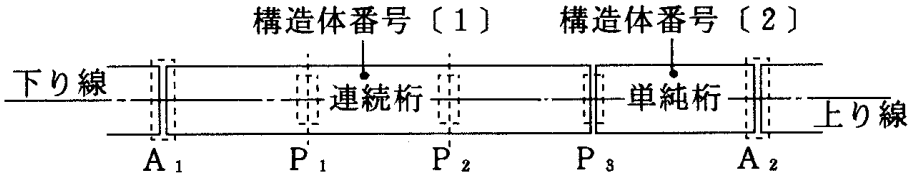
① 橋側歩道橋の場合



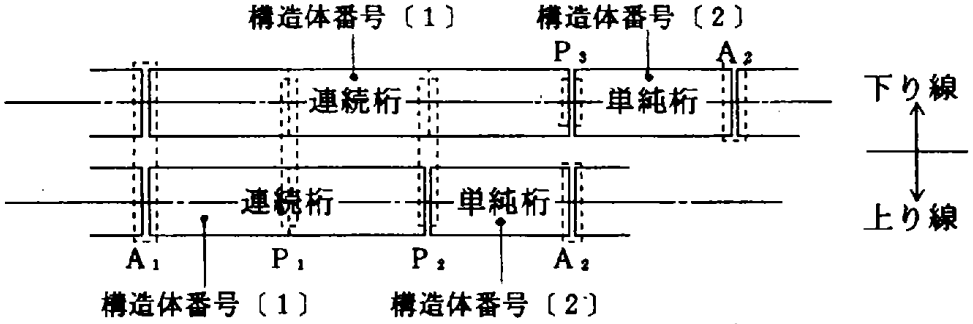
② 自動車専用橋と自転車歩行者専用橋が架設されている場合



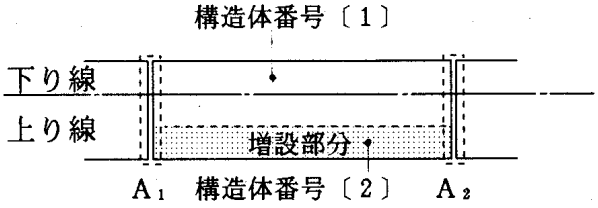
③ 連続桁と単純桁が架設されている場合



④ 上・下線に分離して架設されている場合（上・下線別に１橋毎として、データを作成する場合）



⑤ 同一径間内で拡張にともなう主桁増設の場合



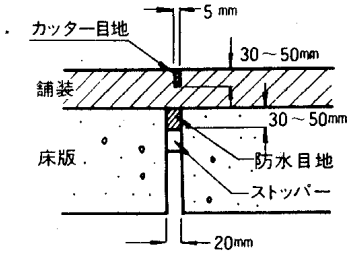
(AB) 起点側伸縮装置形式Ｃ：◆

(AD) 終点側伸縮装置形式Ｃ：◆

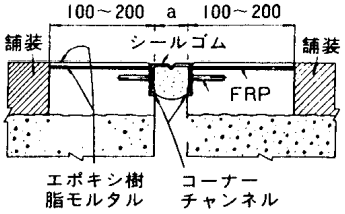
上記（AB）、（AD）については、該当する構造体における起・終点側の伸縮装置の構造形式について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード	区　　分	コード
盲目地型式（不明）	１０	ゴムジョイント型（不明）	４０
盲目地	１１	ハマハイウェイジョイント	４１
切削目地	１２	コル及びブロフジョイント	４２
		ネオスミジョイント	４３
突き合わせ先付型（不明）	２０	エースジョイント	４４
目地板ジョイント	２１	ＦＫジョイント	４５
アングル補強ジョイント	２２	３Ｓジョイント	４６
補剛鋼材ジョイント	２３	マウラージョイント	４７
		トランスフレックス	４８
突き合わせ後付型（不明）	３０	ホーネルジョイント	７１
カットオフジョイント	３１	ワーボフレックス	７２
カップリングジョイント	３２	その他	４９
ハマハイウェイジョイント	３３		
ＳＢラバージョイント	３４	鋼製型式（不明）	５０
ＳＢスチールジョイント	３５	鋼フィンガージョイント	５１
グライディングジョイント	３６	鋼重ね合わせジョイント	５２
フェルスパン	３７		
ハードトップジョイント	３８	その他　特殊型式	９９
ラバートップジョイント	６１	（デマーク式等）	
メタルトップジョイント	６２		
ブロフジョイント	６３		
マウラージョイント	６４		
ガイトップジョイント	６５		
その他	３９		

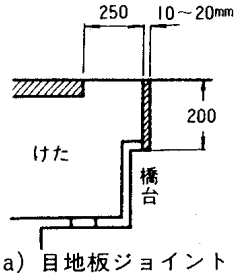
（例　図）



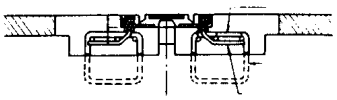
盲目地形式



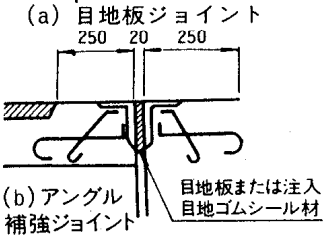
突き合わせ後付形式の例



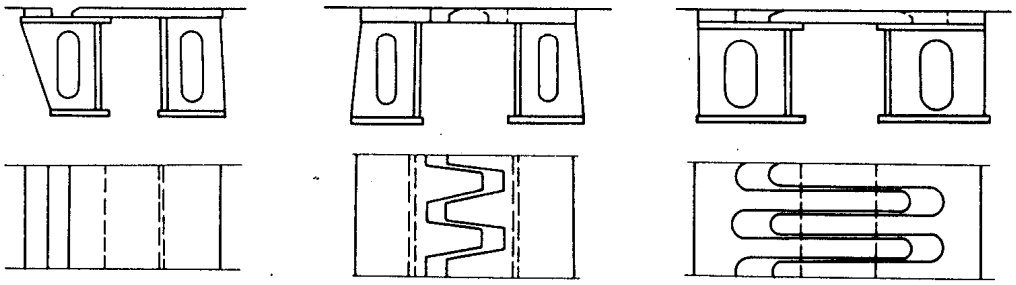
(a) 目地板ジョイント



ゴムジョイント形式の例



突き合わせ先付形式



(a) 鋼重ね合わせジョイント　(b) 鋼フィンガージョイント(片持式)　(c) 鋼フィンガージョイント(支持式)

鋼　製　形　式

(AF) 材料区分C：◆

主構造の材料について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード	区　　分	コード
鋼溶接橋	1	石　　橋	6
鋼（鉄）リベット橋	2	木　　橋	7
ＲＣ橋	3	Ｈ　型　鋼	8
ＰＣ橋	4	そ　の　他	9
ＳＲＣ橋	5		

(AH) 桁形式区分Ｃ：◆

主桁構造の桁形式について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
単　純　桁	1
連　続　桁	2
ゲルバー桁	3
連　結　桁	4
そ　の　他	9

(AJ) 構造形式Ｃ：◆

構造体の形式について、（AF）材料区分Ｃ＋（AJ）構造形式Ｃの３桁のコードを記入する。なお、記入方法については、頭１桁目に（AF）材料区分Ｃで指定したコードを記入し、残り２桁については、下記に示す該当するコードを記入する。

	鋼　　橋	ＲＣ橋	Ｐ　Ｃ　橋	コード	
床版橋		中実床版 中空床版 そ の 他	プレテン床版 プレテン中空床版 ポステン中空床版 その他	１１ １２ １３ １０	注)
桁橋	Ｉ　桁（非合成） Ｉ　桁（合成） Ｉ　桁（鋼床版） Ｉ　桁（不明）	Ｔ　桁	プレテンＴ桁 プレテンＴ桁（合成） ポステンＴ桁 ポステンＴ桁（合成）	２１ ２２ ２３ ２４	
	Ｈ形鋼（非合成） Ｈ形鋼（合成） Ｈ形鋼（不明）			２５ ２６ ２８	
	箱　桁（非合成） 箱　桁（合成） 箱　桁（鋼床版） 箱　桁（不明）	箱　桁	プレテン箱桁 プレテン箱桁（合成） ポステン箱桁 ポステン箱桁（合成）	３１ ３２ ３３ ３４	
	その他			３０	
溝橋（ＢＯＸカルバート）				３５	
トラス橋				４０	
アーチ橋	タイドアーチ ランガー ローゼ フィレンデール ニールセン アーチ その他			５１ ５２ ５３ ５４ ５５ ５６ ５０	
ラーメン橋				６０	
斜張橋	Ｉ　桁 箱　桁 トラス その他			７１ ７２ ７３ ７０	

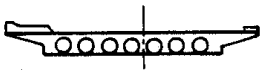
吊橋	Ｉ　桁	８１
	箱　桁	８２
	トラス	８３
	その他	８０
その他		９９

注）ＰＣ橋においてＩ桁は、Ｔ桁に含めて考える。
小分類で区分できない場合は、「その他」のコードを選ぶ。
ＳＲＣ橋，石橋，木橋は、コード９９とする。

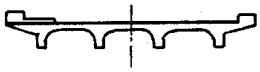
（記入例）主構造の材料……ＰＣ橋　　―――＞（AF）材料区分Ｃ　ｺｰﾄﾞ「４」を指定

構造体の形式……桁橋のﾌﾟﾚﾃﾝＴ桁の場合－＞（AJ）構造形式Ｃ　ｺｰﾄﾞ「４２１」となる

ＲＣ中実床版

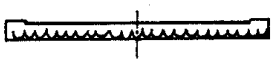


ＲＣ中空床版



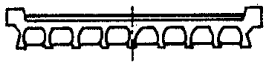
ＲＣ　Ｔ桁

ＲＣ　箱桁

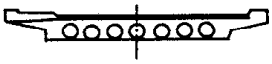


ＰＣプレテン床版

ＰＣプレテン中空床版



ＰＣプレテンＴ桁

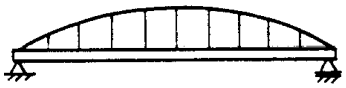


ＰＣポステン中空床版

ＰＣポステンＴ桁

ＰＣポステン箱桁

（ａ）タイドアーチ橋

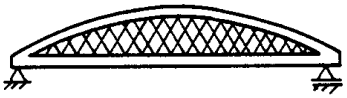


（ｂ）ランガー橋

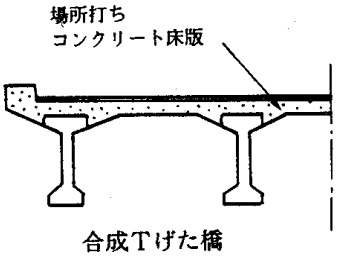
（ｃ）ローゼ橋

（ｄ）ローゼ橋

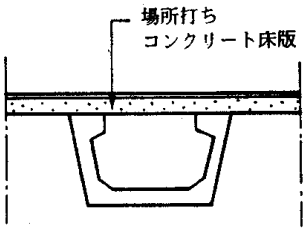
（ｅ）フィレンデール橋



（ｆ）ニールセン橋



合成Ｔげた橋

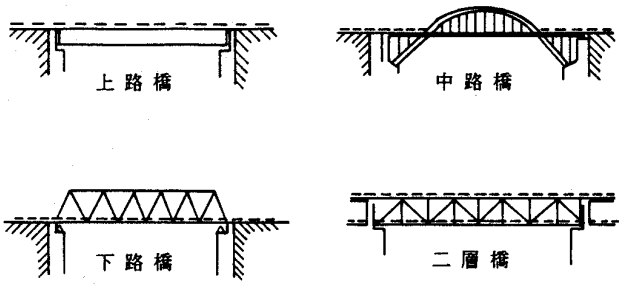


合成箱げた橋

(AL) 路面位置Ｃ：◆

路面位置について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
上路橋　路面が主桁（主構）の上部にあるもの	1
中路橋　〃　〃　中間部　〃	2
下路橋　〃　〃　下部　〃	3
二層橋　路面が上下の二段になっているもの	4



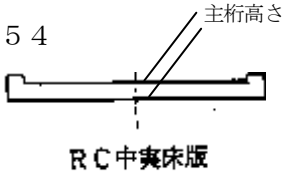
(AN) 主桁主構本数：◆

主桁本数を記入する。（ＲＣ床版橋など主桁本数が不明確な橋梁の場合は１を記入）

(AO) 主桁主構高さ（m）：◆

主桁または主構高さの最大値を、小数点以下２位まで記入する。（ＲＣ床版橋など主桁本数が不明確な橋梁の場合は床版厚を記入）

（記入例）主構高さ　　Ｈ＝１．５３６（m）　　―――>　　１．５４



(AP) 主桁主構間隔（m）：◆

主桁または主構間隔の最大値を、小数点以下２位まで記入する。（ＲＣ床版橋など主桁本数が不明確な橋梁の場合は‘＊’を記入）

（記入例）主構間隔　　Ｌ＝８．４８２（m）　　―――>　　８．４８

(AQ) 横桁間隔（m）

横桁間隔の最大値を、小数点以下２位まで記入する。（横桁が存在しない場合は‘＊’を記入）

（記入例）横桁間隔　　Ｌ＝４．２８１（m）　　―――>　　４．２８

(AX) 床版材料Ｃ：◆

床版材料について、該当するコードを記入する。

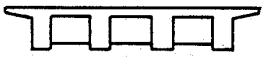
区　　分	コード
鋼　　系	1
コンクリート系	2
そ　の　他	9

(AZ) 床版種類使用形式Ｃ

該当する構造体の床版種類使用形式について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
一体型　（場所打主桁＋場所打床版）	１１
上乗せ型（プレキャスト主桁＋場所打床版）	２１
問詰め型（プレキャスト主桁＋場所打床版）	３１
一体型　（プレキャスト主桁＋プレキャスト床版）	４１
現場接合（プレキャスト主桁＋プレキャスト床版）	４２
場所打床版	５１
プレキャスト床版	６１
鋼床版	７１
合成床版	８１
その他	９９

構造コード　①　一体型（場所打主構＋場所打床版）



（場所打Ｔ型桁）

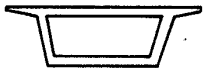
〃　②　上乗せ型（プレキャスト主構＋場所打床版）

（ＰＣ合成桁）

〃　③　間詰型（プレキャスト主構＋場所打床版）

（ＲＣプレキャスト桁
ＰＣ　〃　桁）

〃　④　一体型（プレキャスト主構＋プレキャスト床版）



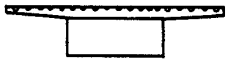
（プレキャスト箱桁）

〃　⑤　現場接合型（プレキャスト主構＋プレキャスト床版）

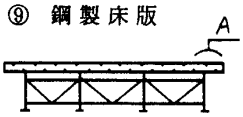
構造コード　⑥　場所打床版（一般鋼橋）

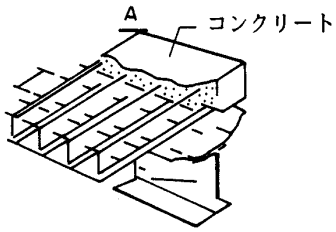
〃　⑦　プレキャスト床版

〃　⑧　鋼　床　版



〃　⑨　鋼製床版





(BB) 床版橋軸直角方向支間（m）

(BD) 床版厚さ（cm）

床版の最小の厚さを小数点以下１位まで記入する。（コンクリート床版以外、及び床版橋は‘＊’を記入）

（記入例）　厚さ　　Ｈ＝２５．５cm　　―――>　　２５．５

(BP) 架設年月日：◆

架設年月日を記入する。（上部工架設年）（年は西暦年で記入）

（記入例）　１９８３年１０月１４日　　―――>　　１９８３１０１４

(BQ) 鋼上部工材質Ｃ

鋼上部工の主な材質について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード	区　　分	コード
Ｓｔ３９	１０	ＳＭ４９０Ｙ（ＳＭ５０Ｙ）	５０
ＳＳ４００　（ＳＳ４１）	２１	ＳＭ５２０　（ＳＭ５３）	６０
ＳＳ４９０　（ＳＳ５０）	２５	ＳＭ５７０　（ＳＭ５８）	７０
ＳＭ４００　（ＳＭ４１）	３０	ＳＭＡ５７０（ＳＭＡ５８）	７１
ＳＭＡ４００（ＳＭＡ４１）	３１	軽合金	８０
ＳＭ４９０　（ＳＭ５０）	４０	その他	９９
ＳＭ４９０Ａ（ＳＭ５０Ａ）	４１		
ＳＭＡ４９０（ＳＭＡ５０）	４２		

注）

注）（　）内は旧材質名を示す。

(BT) 鋼上部工表面処理Ｃ：◆

鋼上部工の耐候性鋼材の表面処理について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
裸　使　用	０
一部表面処理	１
全面　〃	２

(CB) 塗装年月日：◆

該当する構造体について、新設時の塗装年月日を記入する。なお、塗替時については「D029橋梁塗装歴」再塗装データで取り扱う。コンクリート橋の場合は‘＊’を記入する。（年は西暦年で記入）

（記入例）　１９８６年　３月　１５日　―――＞　１９８６０３１５

(CC) プライマー下塗塗料Ｃ：◆

構造体の新設時でのプライマー及び下塗り塗料について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
長ばく型エッチングプライマー	１１
短ばく型エッチングプライマー	１２
有機質ジングリッチプライマー	１３
無機質ジングリッチプライマー	１４
塩化ゴム系プライマー	１５
エポキシ樹脂プライマー	１６
溶融亜鉛めっき	２０
亜鉛溶射	２１
アルミ溶射	２２
鉛丹さび止めペイント１種	２３
鉛丹さび止めペイント２種	２４
鉛系さび止めペイント１種	２５
鉛系さび止めペイント２種	２６
亜酸化鉛さび止めペイント１種	２７
亜酸化鉛さび止めペイント２種	２８
塩基性クロム酸鉛さび止めペイント	２９
ジアミド鉛さび止めペイント１種	３１
ジアミド鉛さび止めペイント２種	３２
ジンクロメートさび止めペイント１種	３３
ジンクロメートさび止めペイント２種	３４
鉛酸カルシウム下塗り塗料	３５
塩化ゴム系下塗り塗料	４５
エポキシ樹脂下塗り塗料	４６
そ　の　他	５９

(CE) 中塗塗料Ｃ：◆

(CG) 上塗塗料Ｃ：◆

上記（CE）、（CG）については、構造体の新設時での中塗塗料、上塗塗料について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
長油性フタル酸樹脂中塗り塗料	６１
長油性フタル酸樹脂上塗り塗料	８１
フェノール樹脂系Ｍ１０塗料	７１
エポキシ樹脂系Ｍ１０塗料	７２
アルミニウムペイント中塗り	６２
タールエポキシ樹脂塗料	７３
塩化ゴム中塗り塗料	６５
塩化ゴム上塗り塗料	８５
ポリウレタン樹脂用中塗り塗料	６６
ポリウレタン樹脂上塗り塗料	８６
フッソ樹脂用中塗り塗料	６７
フッソ樹脂上塗り塗料	８７
そ　の　他	９９

(CI) 塗装方法Ｃ：◆

塗装方法について、該当するコードを記入する。コンクリート橋の場合は‘＊’を記入する。

区　　分	コード
ハケ塗り	1
エアレス	2
へ　　ラ	3
そ　の　他	9

(CK) 工場塗装面積（㎡）：◆

(CL) 本体塗装面積（㎡）：◆

(CM) 高欄塗装面積（㎡）：◆

上記（CK）～（CM）については、該当する構造体の塗装面積を、小数点以下１位まで記入する。コンクリート橋の場合は‘＊’を記入する。

(CN) 塗装色：◆

塗装色について代表的な色を選定し、日本塗装工業会の定めるコードを記入する。コンクリート橋の場合は‘＊’を記入する。

（記入例）　緑　　―――>　　Ａ１２－６３７
　　ライトグレー　――>　　Ｈ１－１００３

(CO) 塗装会社：◆

塗装会社名を１０文字以内の日本語で記入する。コンクリート橋の場合は‘＊’を記入する。

(CP) ＰＣ鋼材材質Ｃ

ＰＣ鋼材の材質について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード	区　　分	コード
ＳＷＰＲ１Ａ、ＳＷＰＤ１ （ＳＷＰＲ１）	１１	ＳＢＰＲ９３０／１０８０ （ＳＢＰＲ９５／１１０） （ＳＢＰＣ１１０）	１７
ＳＷＰＲ２ （ＳＷＰＣ２）	１２	ＳＢＰＲ９３０／１１８０ （ＳＢＰＲ９５／１２５） （ＳＢＰＣ１２５）	１８
ＳＷＰＲ７Ａ （ＳＷＰＣ３）	１３	ＳＷＰＲ１Ｂ	２０
ＳＷＰＲ７Ｂ	１４	ＳＢＰＲ９３０／１０３０ （ＳＢＰＲ８０／１０５）	２１
ＳＷＰＲ１９	１５	そ　の　他	９９
（ＳＢＰＲ８０／９５） （ＳＢＰＣ９５）	１６		

注）（　）内は、旧材質名を示す。

(CR) ＰＣ鋼材緊張工法Ｃ

ＰＣ鋼材の緊張工法について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
フレシネー工法	１１
ディビダーク工法	１２
ＢＢＲＶ工法	１３
バウルレオンハルト工法	１４
レオバ工法	１５
ＭＤＣ工法	１６
ＳＥＥＥ工法	１７
ＯＢＣ工法	１８
ＶＳＬ工法	１９
ＯＳＰＡ工法	２０
そ　の　他	９９

(CT) 主桁コンクリート強度（kgf／cm^2）

主桁のコンクリート強度（σck）を記入する。（鋼の場合は‘＊’を記入）

（記入例）　強度　σck＝２７０　　―――>　　２７０

(CU) 主桁打設方法Ｃ

主桁のコンクリートの打設方法について、代表的なものを選定し該当するコードを記入する。

区　　分	コード
ポ ン プ	1
バケット	2
工場打設（工場製品）	4
現場打設（不明）	5
そ の 他	9

＊　コード３は欠番とする。

(CW) 主桁セメント種類Ｃ

主桁のセメントの種類について、代表的なものを選定し該当するコードを記入する。（工場打設（工場製品）の場合は、‘＊’を記入）

区　　分	コード
普通セメント	1
早強セメント	2
高炉セメント	3
そ　の　他	9

(CY) 主桁細骨材種類Ｃ

主桁細骨材の種類について、代表的なものを選定し該当するコードを記入する。（工場打設（工場製品）の場合は、‘＊’を記入）

区　　分	コード
川　　砂	1
海　　砂	2
砕　　砂	3
そ　の　他	9

注）

注）その他には、山砂、陸砂を含む。

(DA) 主桁粗骨材種類Ｃ

主桁粗骨材の種類について、代表的なものを選定し該当するコードを記入する。（工場打設（工場製品）の場合は、‘＊’を記入）

区　　分	コード

川　砂　利	1
山　砂　利	2
海　砂　利	3
砕　　石	4
そ　の　他	9

(DC) 主桁粗骨材寸法（mm）

主桁粗骨材の寸法を記入する。（鋼の場合は‘＊’を記入）

（記入例）　寸法　２５mm　――――――――>　　２５

(DD) 主桁指定スランプ（cm）

主桁の指定スランプを、小数点以下１位まで記入する。（鋼の場合は‘＊’を記入）

（記入例）　指定スランプ　７．０cm　――>　　７．０

(DE) 主桁混和剤１Ｃ

(DG) 主桁混和剤２Ｃ

(DI) 主桁混和剤３Ｃ

(DK) 主桁混和剤４Ｃ

(DM) 主桁混和剤５Ｃ

上記（DE）～（DM）については、代表的な主桁混和剤の種類（５種類以内）を選定し、該当するコードを記入する。

区　　分		コード	区　　分	コード	
ＡＥ剤		１１	流動化剤	４１	注2)
減水剤	標準形	２１	防　錆　剤	５１	
	遅延形	２２	凝結遅延剤	６１	注3)
	促進形	２３	硬化促進剤	７１	
注1) ＡＥ減水剤	標準形	３１	そ　の　他	９９	
	遅延形	３２			
	促進形	３３			

注１）ＡＥ剤別添加形を含む
注２）高性能減水剤を含む
注３）超遅延剤を含む

(DO) 主桁アルカリ骨材対策１Ｃ

(DQ) 主桁アルカリ骨材対策２Ｃ

(DS) 主桁アルカリ骨材対策３Ｃ

(DU) 主桁アルカリ骨材対策４Ｃ

上記（DO）～（DU）については、代表的な主桁アルカリ骨材対策を選定（４種類以内）し、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
特に対策をしない	0
反応性のない骨材を使用	1
ＪＩＳ　Ａ５２１０に規定される低アルカリ形セメントを使用	2
アルカリ骨材反応抑制効果の確かめられたセメントを使用する	3
コンクリートに導入されるアルカリの総量を３kg／m³以下にする	4
そ　の　他	9

(DW) 床版コンクリート強度（kgf／cm²）

(CT) 主桁コンクリート強度と同様に、床版コンクリート強度を記入する。（鋼床版の場合は‘＊’を記入）

(DX) 床版打設方法Ｃ

(CU) 主桁打設方法と同様に、床版打設方法について該当するコードを記入する。

(DZ) 床版セメント種類Ｃ

(CW) 主桁セメント種類と同様に、床版のセメント種類について該当するコードを記入する。（工場打設（工場製品）の場合は‘＊’を記入）

(EB) 床版細骨材種類Ｃ

(CY) 主桁細骨材種類と同様に、床版細骨材種類について該当するコードを記入する。（工場打設（工場製品）の場合は‘＊’を記入）

(ED) 床版粗骨材種類Ｃ

(DA) 主桁粗骨材種類と同様に、床版粗骨材種類について該当するコードを記入する。（工場打設（工場製品）の場合は‘＊’を記入）

(EF) 床版粗骨材寸法（mm）

(DC) 主桁粗骨材寸法と同様に、床版粗骨材寸法を記入する。（鋼床版の場合は‘＊’を記入）

(EG) 床版指定スランプ（cm）

(DD) 主桁指定スランプと同様に、床版指定スランプを記入する。（鋼床版の場合は‘＊’を記入）

(EH) 床版混和剤１Ｃ

(EJ) 床版混和剤２Ｃ

(EL) 床版混和剤３Ｃ

(EN) 床版混和剤４Ｃ

(EP) 床版混和剤５Ｃ

上記（EH）～（EP）については、（DE）～（DM）主桁混和剤と同様に、床版混和剤について該当するコードを記入する。

(ER) 床版アルカリ骨材対策１Ｃ

(ET) 床版アルカリ骨材対策２Ｃ

(EV) 床版アルカリ骨材対策３Ｃ

(EX) 床版アルカリ骨材対策４Ｃ

上記（ER）～（EX）については、（DO）～（DU）主桁アルカリ骨材対策と同様に、床版アルカリ骨材対策について該当するコードを記入する。

〔Ｄ０２７〕　橋 側 歩 道 橋 径 間

この調査表は、橋側歩道橋の支間及び支承構造に関するデータを登録するためのものである。

１．一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

○　「D020橋側歩道橋基本」の作成単位毎かつ「D025橋側歩道橋上部工」の作成単位毎とする。

○　支間毎に作成する。

２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｇ－１）現旧区分

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

（Ｊ）整理番号３

（Ｎ）補助番号

上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｇ－１）、（Ｈ）、（Ｉ）、（Ｊ）、（Ｎ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（Ｐ）橋梁コード

橋梁コードについては以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Q）分割区分C

該当する橋梁の親表（「D010橋梁基本」）で記入した分割区分コードを記入する。

（Q－１）分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（S）構造体番号：◆

該当する支間に対する上部工の構造体番号を記入する。記入方法については、「D025橋側歩道橋上部工」（S）構造体番号の付し方に合わせる。

（T）径間番号：◆

「D025橋側歩道橋上部工」の作成単位毎に該当する径間について、起点側から付した通し番号を記入する。（図－１及び記入例参照）なお、径間が100径間以上あった場合、100径間目以降は以下のとおり番号を記入する。

（記入例）1、 2、・・ 98、 99、 A0、 A1、 A2、 A3、 A4、……、A9、 B0、 B1、……

↑ ↑ ↑ ↑

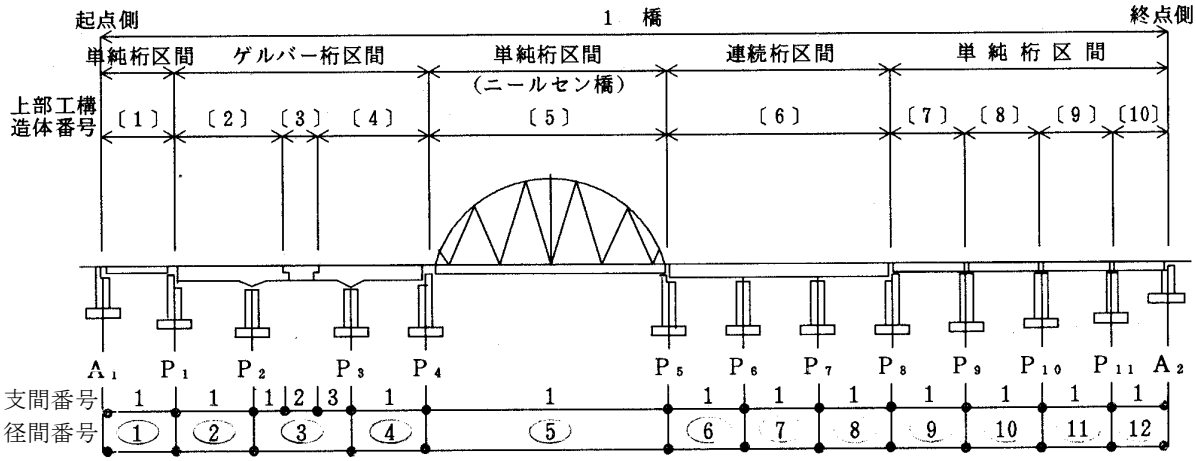
1径間目 100径間目 101径間目 110径間目

（U）径間分割番号：◆

径間分割のある場合には、径間分割番号を記入し、径間分割がない場合は‘０’を記入する。（図－１及び記入例参照）

（V）支間番号：◆

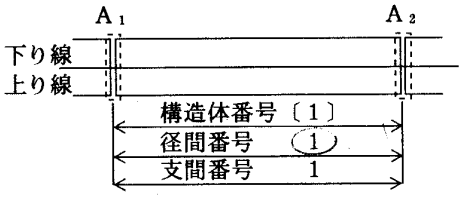
１径間内において複数の支間が存在する場合には、径間内で付した通し番号のうち該当する支間番号を記入する。（図－１及び記入例参照）



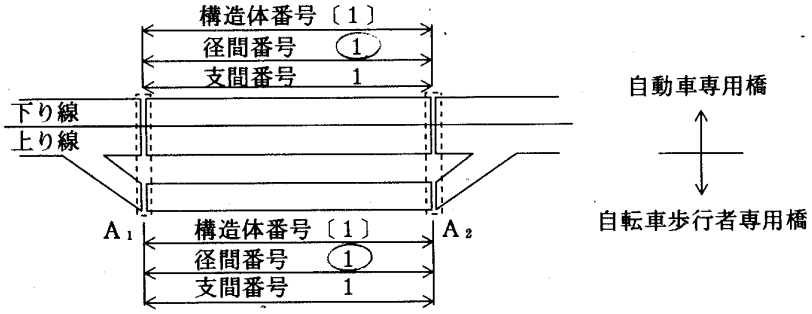
図－1　径間番号・支間番号の付与の例

（記入例－1）　径間番号及び支間番号の付し方

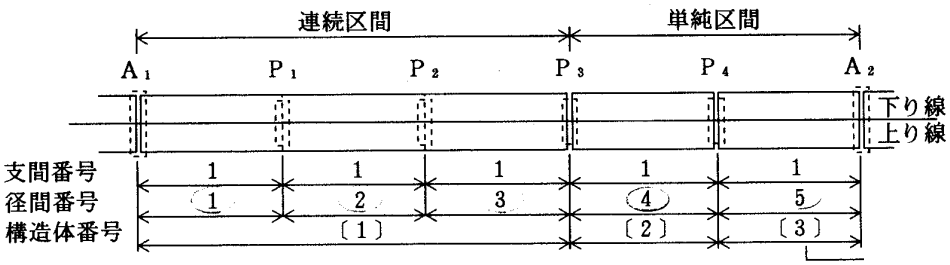
①　橋側歩道橋の場合



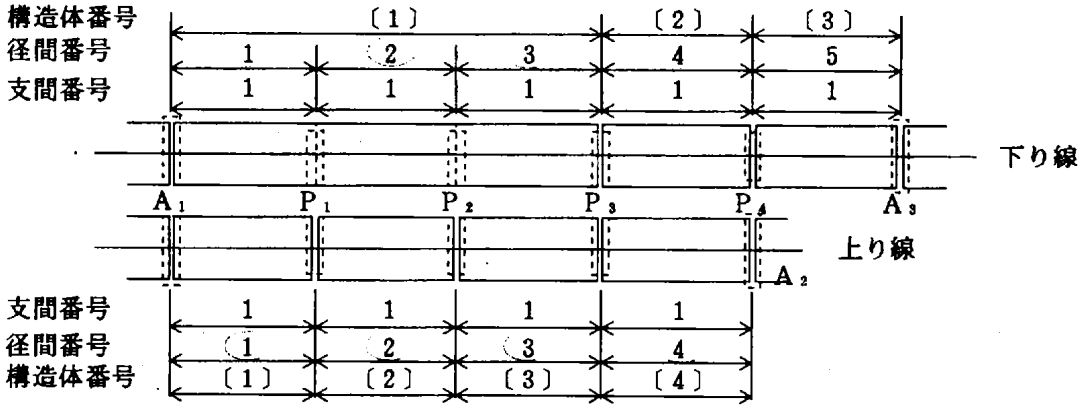
②　自動車専用橋と自転車歩行者専用橋が架設されている場合



③　連続と単純桁が架設されている場合

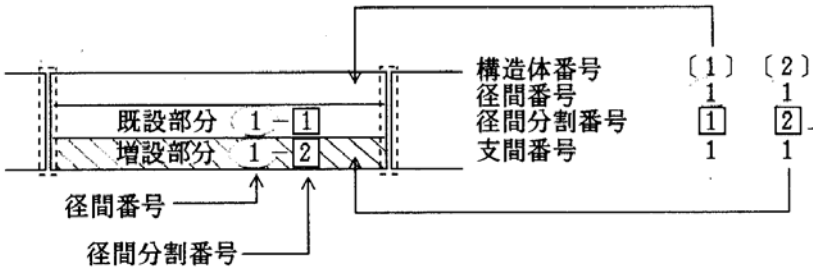


④　上・下線に分離して架設されている場合

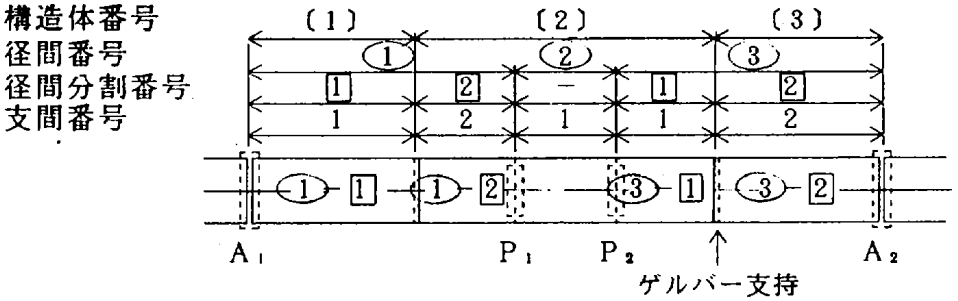


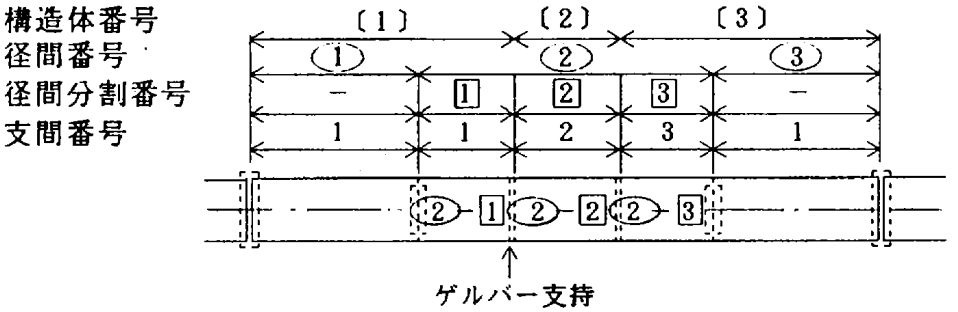
（記入例－２）同一径間内に複数の上部工が存在する場合の径間分割番号の付し方

①　拡張にともなう主桁増設の場合

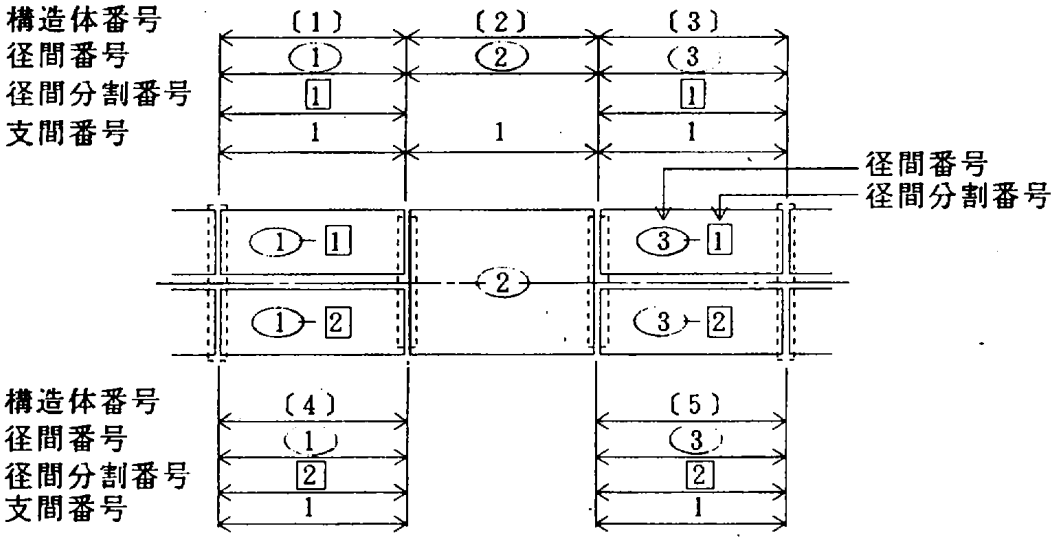


②　ゲルバー桁の場合



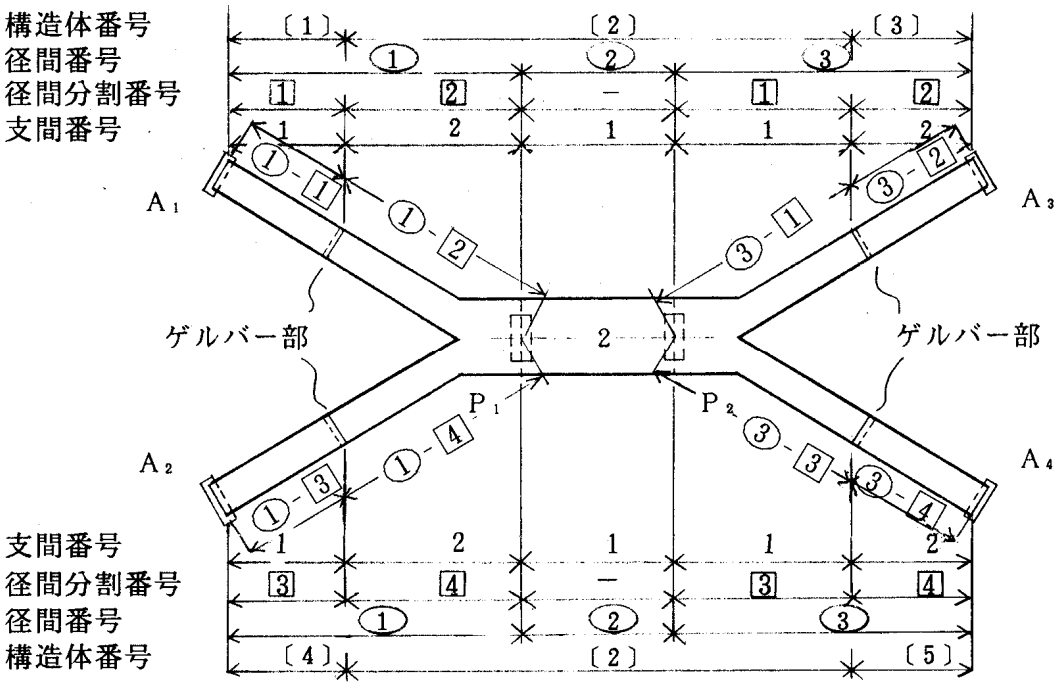


③　分岐している橋梁の場合（その１）



④　分岐している橋梁の場合（その２）

下図のように上部工の構造体が５種類存在する場合、まず、径間は①～③までの３径間とし、①と③に対する径間は、各々２つの径間分割を行う必要がある。また、①と③の径間は、ゲルバー形式のため、さらに１、２の支間番号を付ける。



(W) 支間長（m）：◆

上部工の支間長（径間長）を、小数点以下３位まで記入する。

（記入例）　支間長　Ｌ＝５８．４８３ｍ　――>　５８．４８３

（Ｘ）起点側支承種類Ｃ：◆

該当する支間の支承構造（支承及び落橋防止構造の種類）を、起点側・終点側に分けて記入する。ただし、単純桁については、１つの支間で起点側・終点側の別に２組の支承データを持つが、連続桁等については２径間目からは支承構造が重複する事から２径間目からは終点側にデータを記入し、起点側は‘＊’とする。

支承の種類について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード	区　　分	コード
固定支承（不明）	１０	可動支承（不明）	２０
線　支承	１１	線　支承	２１
ピン支承	１２	１本ローラー支承	２５
ピボット支承	１３	複数ローラー支承	２６
コンクリートヒンジ支承	１４	ロッカー支承	２７
支承板支承	１８	支承板支承	２８
ゴム支承	１９	ゴム支承	２９
		剛結構造（ラーメン）	８０
		その他	９９

注）

注）固定か可動か分からない場合は、下１桁の数字を用い頭に０を付した２桁で記入する。

（記入例）　ゴム支承　――――――>　０９

（Ｚ）起点側落橋防止１Ｃ：◆

(AB) 起点側落橋防止２Ｃ：◆

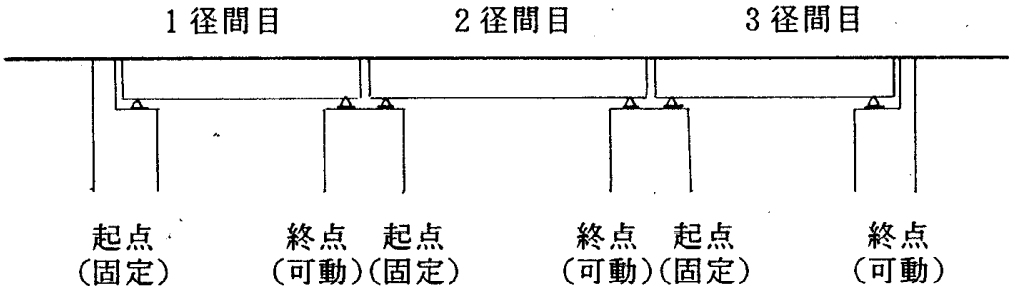
(AD) 起点側落橋防止３Ｃ：◆

上記（Ｚ）～（AD）については、代表的な落橋防止構造の種類（３種類以内）を選定し、該当するコードを記入する。

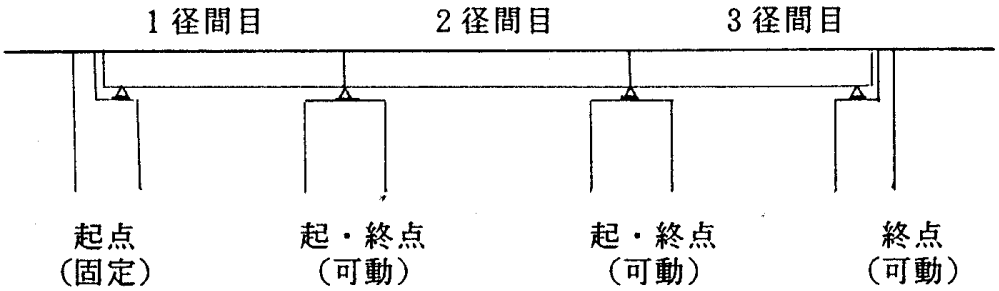
区　　分	コード

（記入例）

① 単純桁の場合



② 連続桁の場合



な　　し	0
支承の移動制限装置	1
桁端から下部構造頂部縁端までの桁の長さの確保	2
桁と下部構造を連結する構造	3
桁または下部構造に突起を設ける構造	4
２連の桁を相互に連結する構造	5
そ の 他	9

	1径間目								2径間目								3径間目							
	起点側				終点側				起点側				終点側				起点側				終点側			
	支承種類	落防橋止			支承種類	落防橋止			支承種類	落防橋止			支承種類	落防橋止			支承種類	落防橋止			支承種類	落防橋止		
		1	2	3		1	2	3		1	2	3		1	2	3		1	2	3		1	2	3
① 単純桁の場合	1 0	0	0	0	2 0	0	0	0	1 0	0	0	0	2 0	0	0	0	1 0	0	0	0	2 0	0	0	0
② 連続桁の場合	1 0	0	0	0	2 0	0	0	0	*	0	0	0	2 0	0	0	0	*	0	0	0	2 0	0	0	0

(AF) 終点側支承種類Ｃ：◆

（X）起点側支承種類Ｃと同様に、終点側支承種類について該当するコードを記入する。

(AH) 終点側落橋防止１Ｃ：◆

(AJ) 終点側落橋防止２Ｃ：◆

(AL) 終点側落橋防止３Ｃ：◆

上記（AH）～（AL）については、（Ｚ）～（AD）起点側落橋防止Ｃと同様に、終点側落橋防止について該当するコードを記入する。

(AN) 起点側躯体番号１：◆

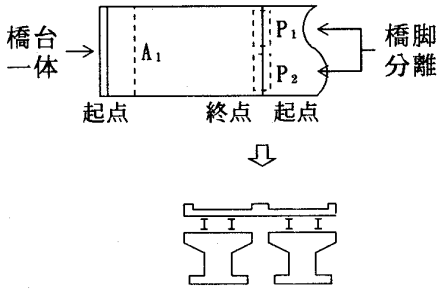
(AO) 起点側躯体番号２：◆

(AP) 終点側躯体番号１：◆

(AQ) 終点側躯体番号２：◆

上記（AN）～（AQ）については該当する径間に対する下部工の躯体番号を起点側，終点側を記入する。記入方法については、「D026橋側歩道橋下部工　記入事項（Ｓ）」の付し方に合わせる。

（記入例）下図に示す状態の場合



・「D026橋側歩道橋下部工」の記入－＞　Ａ１

Ｐ１

Ｐ２

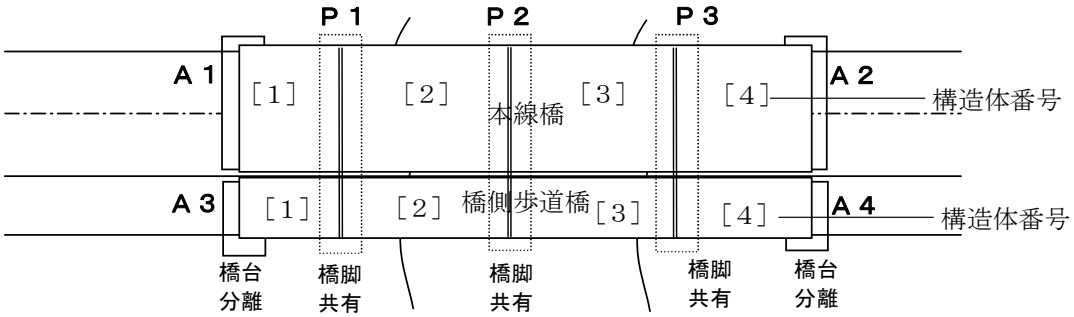
・本書式での記入　――＞　起点側　　終点側

躯体番号１　　Ａ１　　Ｐ１

躯体番号２　　＊　　Ｐ２

なお、下図のように本線橋と橋側歩道橋で共有している下部工については本線橋の下部工（D016）で定義した下部工躯体番号を記入する（下図例：P1、P2、P3）。この場合、共有している下部工躯体番号は予備欄を利用し記入すること。（予備欄記入例：共有、P1、P2、P3）

橋側歩道橋専用の下部工は橋側歩道橋の下部工（D026）で定義する下部工躯体番号を記入する。（下図例：A3、A4）



〔Ｄ０２６〕　橋側歩道橋下部工

この調査表は、橋側歩道橋の下部工に関するデータを登録するためのものである。

１．一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

○　「D020橋側歩道橋基本」の作成単位毎とする。

○　下部工毎とする。

２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｇ－１）現旧区分

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

（Ｊ）整理番号３

（Ｎ）補助番号

上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｇ－１）、（Ｈ）、（Ｉ）、（Ｊ）、（Ｎ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（Ｐ）橋梁コード

橋梁コードについては以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Q）分割区分C

該当する橋梁の親表（「D010橋梁基本」）で記入した分割区分コードを記入する。

（Q－１）分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（S）躯体番号：◆（図－１、２、３及び記入例参照）

下部工躯体毎の番号を記入する。なお、番号の頭に橋台の場合は「A」、橋脚の場合は「P」をつける。ただし、橋脚数が多く躯体番号が「９９」を超える場合は、以下のとおり躯体番号を記入する。

（記入例）　P1、P2、　P98、P99、PA0、PA1・・・・・・・、PB0・・・・

↑　　↑　↑　　↑

1躯体目　　100躯体目　101躯体目　　110躯体目

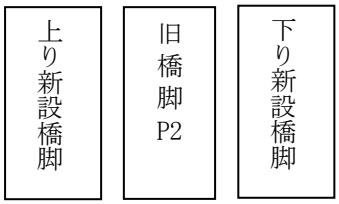
また、下部工増設などの特別なケースで、どうしても下部工躯体分割の意味を含みたい場合には、以下の番号を付ける。

・橋脚で上り側に新設の場合：「X」の記号で始め、旧橋脚の通し番号を付ける

・橋脚で下り側に新設の場合：「Y」の記号で始め、旧橋脚の通し番号を付ける

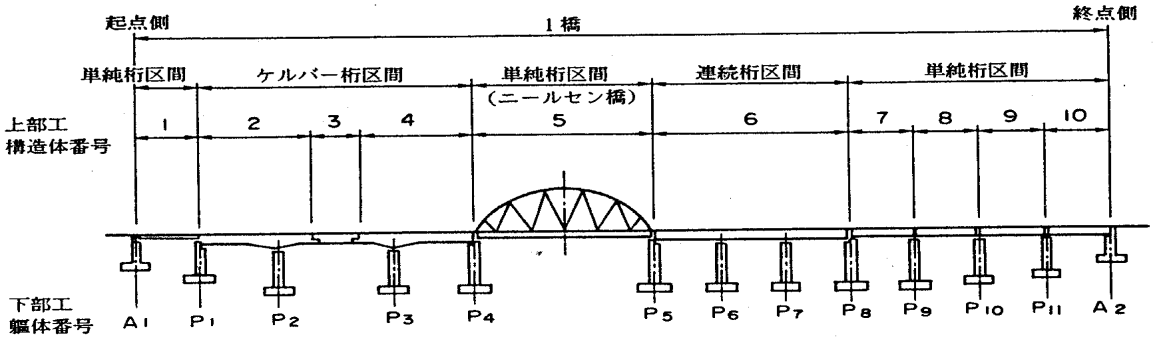
・橋台で上り側に新設の場合：「O」の記号で始め、旧橋台の通し番号を付ける

・橋台で下り側に新設の場合：「Z」の記号で始め、旧橋台の通し番号を付ける

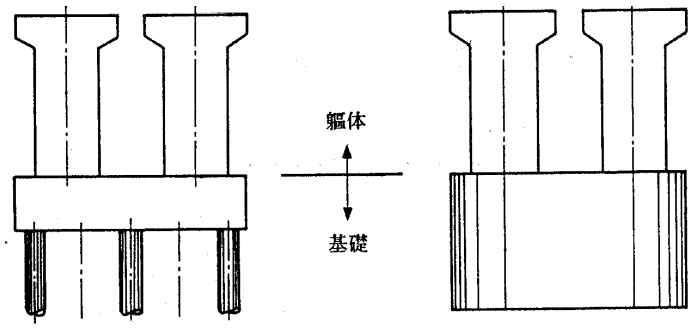


下部工躯体番号　：　X2　　P2　　Y2

なお、躯体部分が分かれていても同一の基礎を共有している場合は同じ躯体とみなし分割しない。また、躯体番号は一橋で重複してはならない。

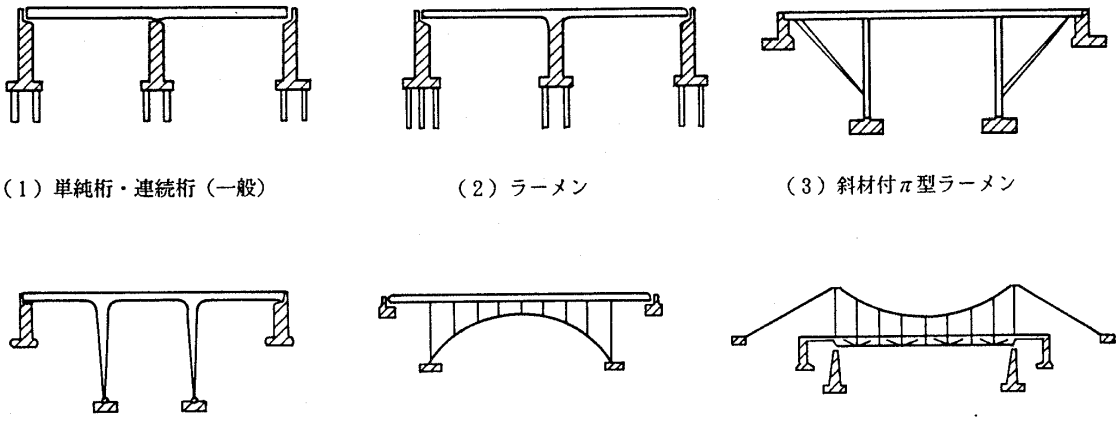


図－1．下部工軀体番号付与の例



下部工軀体番号［P_1］　　下部工軀体番号［P_{10}］

図－2．軀体部分が分離構造で基礎が一体の構造の場合



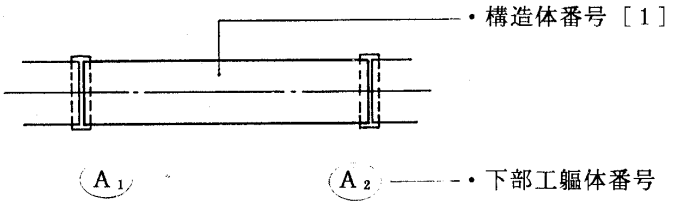
（1）単純桁・連続桁（一般）　（2）ラーメン　（3）斜材付π型ラーメン

（4）鋼π型ラーメン　（5）アーチ　（6）吊橋・斜張橋

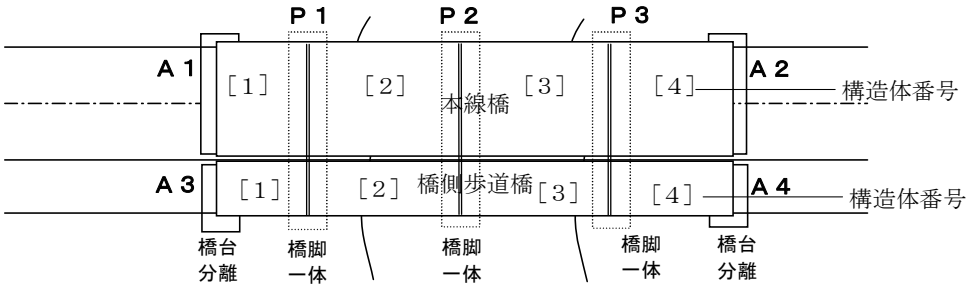
図－3　上部工・下部工の区分

（記入例）

①　1スパンの場合

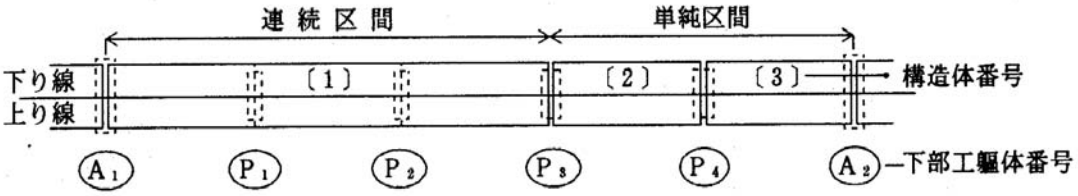


②自動車専用橋と自転車歩行者専用橋が架設されている場合

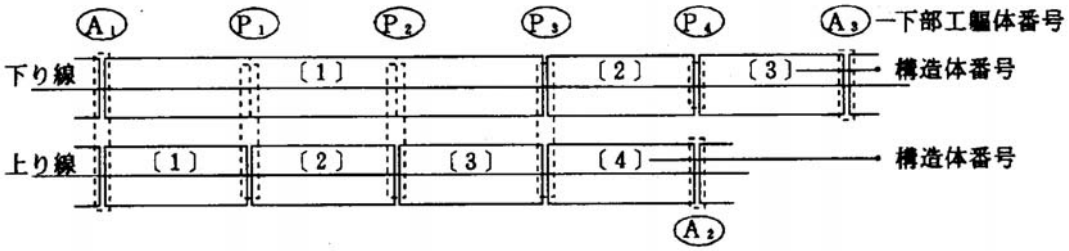


・本線橋、橋側歩道橋を含めて下部工躯体番号(上記例A1～A4、P1～P3)を付ける。
・本線橋と同一箇所に設置されている橋側歩道橋(D020)は、本線橋(D010)のコードと同一の橋梁コードを用いて作成する。(頁 D020－3を参照)
・本線橋専用の下部工は本線橋の下部工（D016）で定義する。（上記例A1、A2）
・本線橋と橋側歩道橋が供用している下部工は本線橋の下部工（D016）で定義する。（上記例P1、P2、P3）
・橋側歩道橋専用の下部工は橋側歩道橋の下部工（D026）で定義する。（上記例A3、A4）

③　連続と単純桁が架設されている場合



④　上・下線に分離して架設されている場合



（T）完成年月日

該当する下部工の完成年月日を記入する。（年は西暦年を記入）

（記入例）　１９７０年　６月１７日　―――>　１９７００６１７

（U）橋台橋脚構造形式Ｃ：◆

該当する下部工の構造形式について、該当するコードを記入する。

区　　分		コード	区　　分		コード
重力式橋台		１１	二層ラーメン橋脚	（ＲＣ）	５１
半重力式橋台		１２		（ＳＲＣ）	５２
逆Ｔ式橋台		１３		（鋼製）	５３
控え壁式橋台		１４	Ｔ型橋脚	（ＲＣ）	６１
ラーメン橋台		１５		（ＳＲＣ）	６２
中抜き橋台		１６		（鋼製）	６３
盛りこぼし橋台		１７	Ｔ型橋脚	（ＲＣ）	６４
小橋台		１８	（柱円型）	（ＳＲＣ）	６５
その他（橋台）		１９		（鋼製）	６６
壁式橋脚	（ＲＣ）	２１	Ｔ型橋脚	（ＲＣ）	６７
	（ＳＲＣ）	２２	（柱小判型）	（ＳＲＣ）	６８
	（鋼製）	２３		（鋼製）	６９
柱橋脚	（ＲＣ）	３１	Ｉ型橋脚	（ＲＣ）	７１
	（ＳＲＣ）	３２		（ＳＲＣ）	７２
	（鋼製）	３３		（鋼製）	７３
柱橋脚	（ＲＣ）	３４	ﾊﾟｲﾙﾍﾞﾝﾄ橋脚	（ＲＣ）	８１
（１柱円）	（ＳＲＣ）	３５		（ＳＲＣ）	８２
	（鋼製）	３６		（鋼製）	８３
柱橋脚	（ＲＣ）	３７	柱橋脚	（ＲＣ）	８４
（１柱小判）	（ＳＲＣ）	３８	（複数柱角）	（ＳＲＣ）	８５
	（鋼製）	３９		（鋼製）	８６
ラーメン橋脚	（ＲＣ）	４１	柱橋脚	（ＲＣ）	８７
	（ＳＲＣ）	４２	（複数柱円）	（ＳＲＣ）	８８
	（鋼製）	４３		（鋼製）	８９
柱橋脚	（ＲＣ）	４４	柱橋脚	（ＲＣ）	９１
（１柱角）	（ＳＲＣ）	４５	（複数柱小判）	（ＳＲＣ）	９２
	（鋼製）	４６		（鋼製）	９３
Ｔ型橋脚	（ＲＣ）	４７	アーチ拱抬		９８
（柱角型）	（ＳＲＣ）	４８	その他（橋脚）		９９
	（鋼製）	４９			

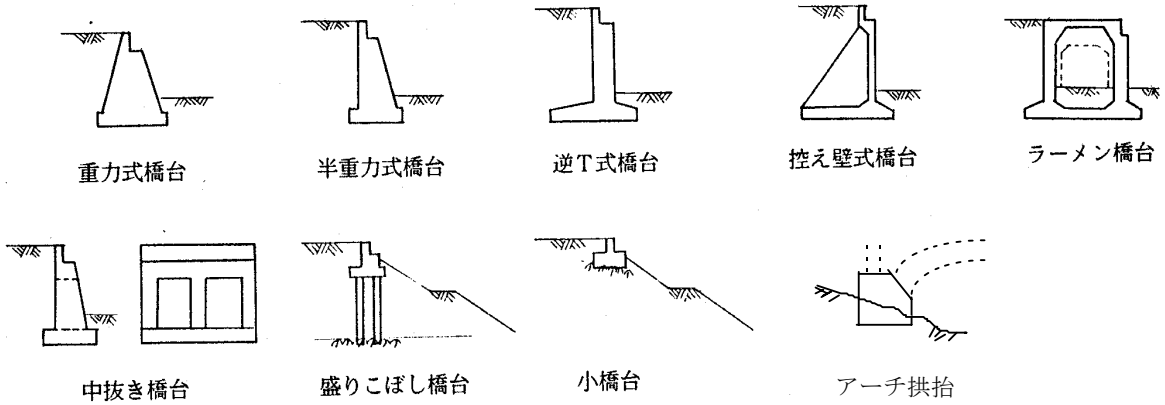
○　構造形式を記入するに当たっては、下部工の構造形式参考図を参照のこと。

・柱橋脚と壁式橋脚の区分は、躯体部の短辺（厚さ）と長辺（幅）の比が１：３未満の場合は「柱橋脚」・１：３以上の場合は「壁式橋脚」とする。

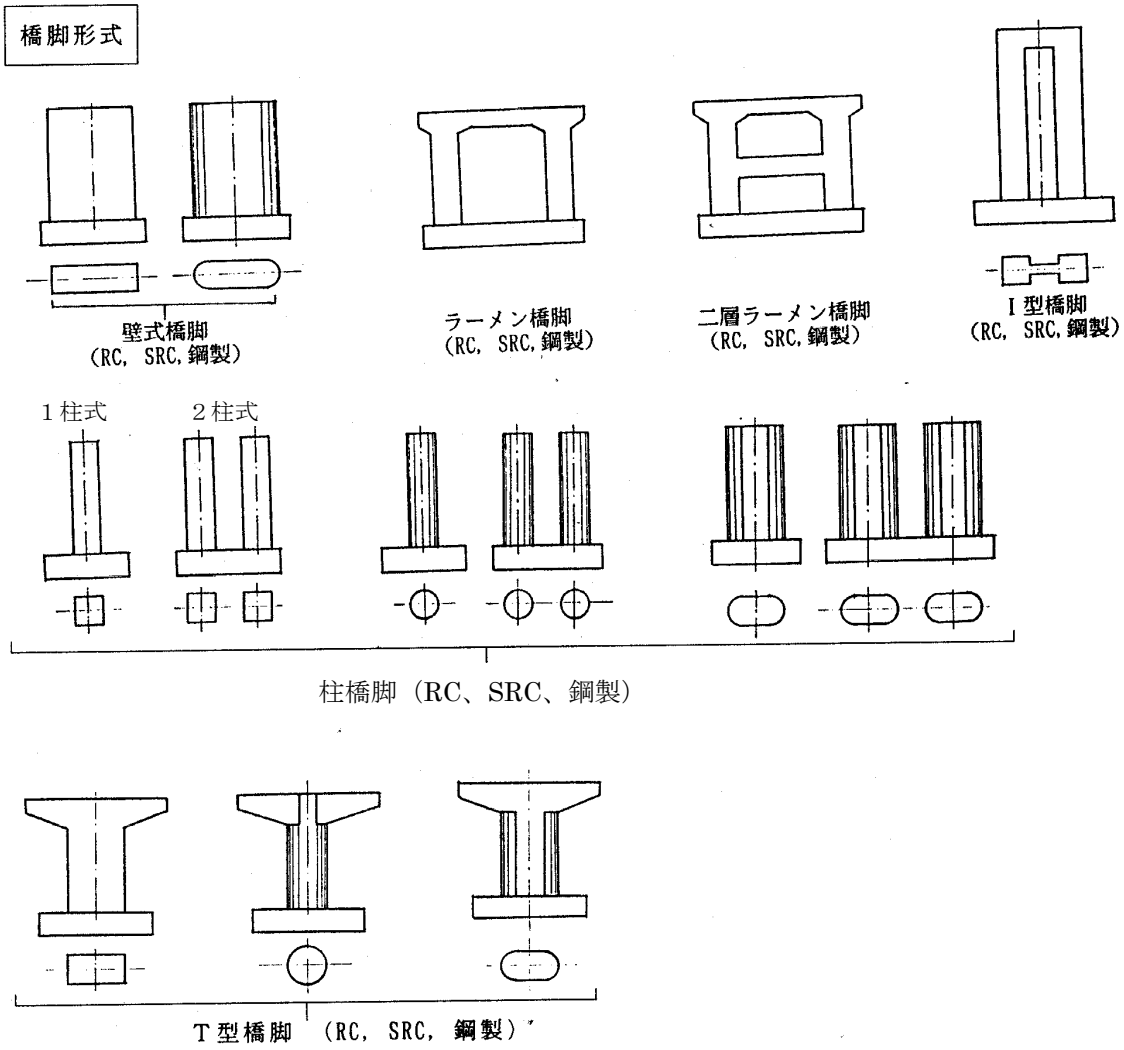
・アーチ橋及び方丈ラーメン橋等の橋脚は「その他（橋脚）」とする。

○　下部工の構造形式（参考図）

橋台形式



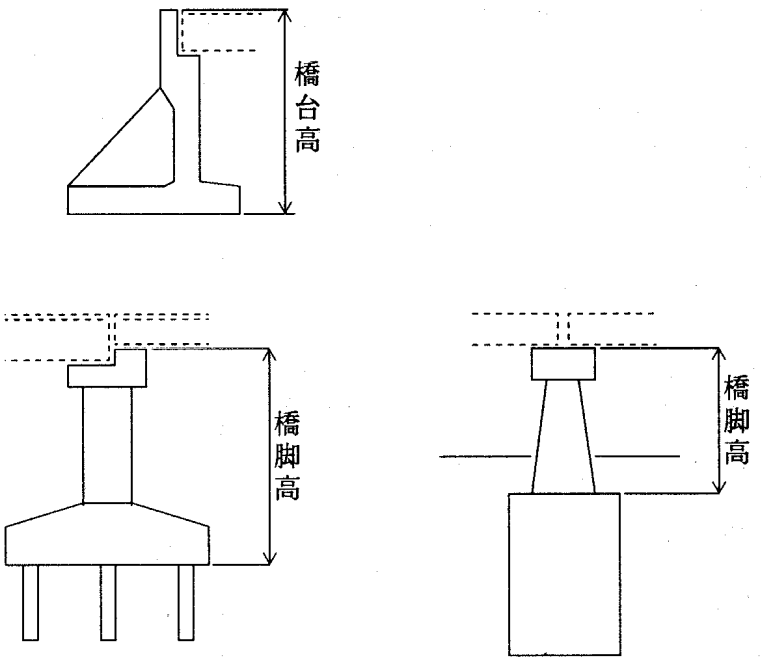
橋脚形式



（W）橋台橋脚高さ（m）：◆

○　橋台の場合、フーチング下面からパラペット天端までの高さを小数点以下２位まで記入する。ただし、基礎がケーソンの場合はケーソン天端からとする。

○　橋脚の場合、フーチング下面から沓座面までの高さを小数点以下２位まで記入する。ただし、基礎がケーソンの場合は、ケーソン天端からとする。



（Z）基礎形式Ｃ：◆

基礎形式について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
直接基礎	0
オープンケーソン	1
ニューマチックケーソン	2
鋼管ウエル	3
場所打ちぐい（深礎を含む）	4
既製鋼ぐい	5
既製ＲＣぐい	6
既製ＰＣぐい	7
木ぐい	8
その他（ＰＨＣぐい）	9

(AL) 塗装年月日：◆

該当する下部工躯体について、新設時の塗装年月日を記入する。なお、塗替については「D029 橋側歩道橋塗装歴」再塗装データで取扱う。（年は西暦年で記入）

（記入例）　１９８６年　３月１５日　―――>　１９８６０３１５

(AM) プライマー下塗塗料Ｃ：◆

下部工躯体の新設時のプライマー及び下塗り塗料について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
長ばく型エッチングプライマー	１１
短ばく型エッチングプライマー	１２
有機質ジングリッチプライマー	１３
無機質ジングリッチプライマー	１４
塩化ゴム系プライマー	１５
エポキシ樹脂プライマー	１６
溶融亜鉛めっき	２０
亜鉛溶射	２１
アルミ溶射	２２
鉛丹さび止めペイント１種	２３
鉛丹さび止めペイント２種	２４
鉛系さび止めペイント１種	２５
鉛系さび止めペイント２種	２６
亜酸化鉛さび止めペイント１種	２７
亜酸化鉛さび止めペイント２種	２８
塩基性クロム酸鉛さび止めペイント	２９
ジアミド鉛さび止めペイント１種	３１
ジアミド鉛さび止めペイント２種	３２
ジンクロメートさび止めペイント１種	３３
ジンクロメートさび止めペイント２種	３４
鉛酸カルシウム下塗り塗料	３５
塩化ゴム系下塗り塗料	４５
エポキシ樹脂下塗り塗料	４６
そ　の　他	５９

(AO) 中塗塗料Ｃ：◆

(AQ) 上塗塗料Ｃ：◆

上記（AO）、（AQ）については、下部工躯体の新設時の中塗り、上塗り塗料について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
長油性フタル酸樹脂中塗り塗料	６１
長油性フタル酸樹脂上塗り塗料	８１
フェノール樹脂系Ｍ１０塗料	７１
エポキシ樹脂系Ｍ１０塗料	７２
アルミニウムペイント中塗り	６２
タールエポキシ樹脂塗料	７３
塩化ゴム中塗り塗料	６５
塩化ゴム上塗り塗料	８５
ポリウレタン樹脂用中塗り塗料	６６
ポリウレタン樹脂上塗り塗料	８６
フッソ樹脂用中塗り塗料	６７
フッソ樹脂上塗り塗料	８７
そ　の　他	９９

(AS) 塗装方法Ｃ：◆

下部工躯体の新設時の塗装方法について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
ハケ塗り	1
エアレス	2
へ　　ラ	3
そ の 他	9

(AU) 工場塗装面積（㎡）：◆

下部工躯体の工場塗装面積を、小数点以下１位まで記入する。コンクリート橋の場合は‘＊’を記入する。

（記入例）　塗装面積　２４０．８㎡　———>　２４０．８

(AV) 本体塗装面積（㎡）：◆

下部工躯体の本体塗装面積を、小数点以下１位まで記入する。コンクリート橋の場合は‘＊’を記入する。

(AW) 塗装色：◆

塗装色について代表的な色を選定し、日本塗装工業会の定めるコードを記入する。コンクリート橋の場合は‘＊’を記入する。

（記入例）　緑　――――――――――>　Ａ１２－６３７

ライトグレー　――――>　Ｈ１－１００３

(AX) 塗装会社：◆

１０文字以内の日本語で記入する。コンクリート橋の場合は‘＊’を記入する。

(AY) ＰＣ鋼材材質Ｃ

ＰＣ鋼材の材質について、該当するコードを記入する。（ＰＣ工法以外は‘＊’を記入）

区　　分	コード	区　　分	コード
ＳＷＰＲ１Ａ、ＳＷＰＤ１（ＳＷＰＲ１）	１１	ＳＢＰＲ９３０／１０８０（ＳＢＰＲ９５／１１０）（ＳＢＰＣ１１０）	１７
ＳＷＰＲ２（ＳＷＰＣ２）	１２	ＳＢＰＲ９３０／１１８０（ＳＢＰＲ９５／１２５）（ＳＢＰＣ１２５）	１８
ＳＷＰＲ７Ａ（ＳＷＰＣ３）	１３	ＳＷＰＲ１Ｂ	２０
ＳＷＰＲ７Ｂ	１４	ＳＢＰＲ９３０／１０３０（ＳＢＰＲ８０／１０５）	２１
ＳＷＰＲ１９	１５	そ　の　他	９９
（ＳＢＰＲ８０／９５）（ＳＢＰＣ９５）	１６		

注）（　）内は、旧材質名を示す。

(BA) ＰＣ鋼材緊張工法Ｃ

ＰＣ鋼材の緊張工法について、該当するコードを記入する。（ＰＣ工法以外は‘＊’を記入）

区　　分	コード
フレシネー工法	１１
ディビダーク工法	１２
ＢＢＲＶ工法	１３
バウルレオンハルト工法	１４
レオバ工法	１５
ＭＤＣ工法	１６
ＳＥＥＥ工法	１７
ＯＢＣ工法	１８
ＶＳＬ工法	１９
ＯＳＰＡ工法	２０
そ　の　他	９９

(BC) 躯体コンクリート強度（kgf／cm^2）：◆

下部工躯体のコンクリート強度（σck）を記入する。鋼橋脚の場合は‘＊’を記入する。

（記入例）　強度　σck＝２４０　　―――>　　２４０

(BD) 躯体打設方法C

下部工躯体のコンクリートの打設方法について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
ポンプ	1
バケット	2
水中コンクリート	3
工場打設（工場製品）	4
現場打設（不明）	5
その他	9

(BF) 躯体セメント種類C

下部工躯体のセメントの種類について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
普通セメント	1
早強セメント	2
高炉セメント	3
そ　の　他	9

(BH) 躯体細骨材種類C

下部工躯体の細骨材の種類について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
川　　砂	1
海　　砂	2
砕　　砂	3
そ　の　他	9

注）

注）その他には、山砂、陸砂を含む。

(BJ) 躯体粗骨材種類C

躯体粗骨材の種類について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区　　分	コード

川　砂　利	1
山　砂　利	2
海　砂　利	3
砕　　石	4
そ　の　他	9

(BL) 躯体粗骨材寸法（㎜）

躯体粗骨材の寸法を記入する。鋼橋脚の場合は‘＊’を記入する。

（記入例）　寸法　２５㎜　――――――――＞　　２５

(BM) 躯体指定スランプ（㎝）

躯体の指定スランプを、小数点以下１位まで記入する。鋼橋脚の場合は‘＊’を記入する。

（記入例）　指定スランプ　７．０㎝　――＞　　７．０

(BN) 躯体混和剤１Ｃ

(BP) 躯体混和剤２Ｃ

(BR) 躯体混和剤３Ｃ

(BT) 躯体混和剤４Ｃ

(BV) 躯体混和剤５Ｃ

上記（BN）～（BV）については、代表的な混和剤の種類（５種類以内）を選定し、該当するコードを記入する。

区　　分		コード	区　　分	コード	
ＡＥ剤		１１	流動化剤	４１	注2)
減水剤	標準形	２１	防　錆　剤	５１	
	遅延形	２２	凝結遅延剤	６１	注3)
	促進形	２３	硬化促進剤	７１	
注1) ＡＥ減水剤	標準形	３１	そ　の　他	９９	
	遅延形	３２			
	促進形	３３			

注１）ＡＥ剤別添加形を含む
注２）高性能減水剤を含む
注３）超遅延剤を含む

(BX) 躯体アルカリ骨材対策１Ｃ

(BZ) 躯体アルカリ骨材対策２Ｃ

(CB) 躯体アルカリ骨材対策３Ｃ

(CD) 躯体アルカリ骨材対策４Ｃ

上記（BX）～（CD）については、代表的なアルカリ骨材対策（４種類以内）を選定し、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
特に対策をしない	0
反応性のない骨材を使用	1
ＪＩＳ　Ａ５２１０に規定される低アルカリ形セメントを使用	2
アルカリ骨材反応抑制効果の確かめられたセメントを使用する	3
コンクリートに導入されるアルカリの総量を３kg／m^3以下にする	4
そ　の　他	9

(CF) 基礎コンクリート強度（kgf／cm^2）

(BC) 躯体コンクリート強度と同様に、基礎コンクリート強度について該当するコードを記入する。

(CG) 基礎打設方法Ｃ

(BD) 躯体打設方法Ｃと同様に、基礎の打設方法について該当するコードを記入する。

(CI) 基礎セメント種類Ｃ

(BF) 躯体セメント種類Ｃと同様に、基礎のセメント種類ついて該当するコードを記入する。

(CK) 基礎細骨材種類Ｃ

(BH) 躯体細骨材種類Ｃと同様に、基礎の細骨材種類ついて該当するコードを記入する。

(CM) 基礎粗骨材種類Ｃ

(BJ) 躯体粗骨材種類Ｃと同様に、基礎の粗骨材種類ついて該当するコードを記入する。

(CO) 基礎粗骨材寸法（mm）

(BL) 躯体粗骨材寸法と同様に、基礎の粗骨材寸法を記入する。

(CP) 基礎指定スランプ（cm）

(BM) 躯体指定スランプと同様に、基礎の指定スランプを記入する。

(CQ) 基礎混和剤１Ｃ

(CS) 基礎混和剤２Ｃ

(CU) 基礎混和剤３Ｃ

(CW) 基礎混和剤４Ｃ

(CY) 基礎混和剤５Ｃ

上記（CQ）～（CY）については、（BN）～（BV）躯体混和剤と同様に、基礎混和剤について該当するコードを記入する。

(DA) 基礎アルカリ骨材対策１Ｃ

(DC) 基礎アルカリ骨材対策２Ｃ

(DE) 基礎アルカリ骨材対策３Ｃ

(DG) 基礎アルカリ骨材対策４Ｃ

上記（DA）～（DG）については、（BX）～（CD）躯体アルカリ骨材対策と同様に、基礎アルカリ骨材対策について該当するコードを記入する。

(DO) 設計震度地盤区分Ｃ

設計震度の地盤区分について、該当するコードを記入する。

（出典：道路橋示方書耐震設計編）

区　　分	コード
１　種　良好な洪積地盤及び岩盤 （沖積、層厚の２倍と洪積層厚の合計が10m以下）	１
２　種　１種及び３種地盤のいずれにも属さない洪積地盤及び沖積地盤	２
３　種　沖積層の厚さが25m未満でかつ軟弱層の厚さが５m未満	３

注)

注）洪積層：沖積層のうち締まった砂層、砂れき層、玉石層を含む。
　　沖積層：がけ崩れ等による新しい堆積層、表土、埋立土ならびに軟弱層を含む。

(DQ) 設計震度

設計震度を、小数点以下２位まで記入する。

（記入例）　Ｋｈ＝０．２０　――――>　０．２０

(DU) 躯体鋼材質Ｃ

躯体の鋼材質について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。（鋼橋脚以外は‘＊’を記入）

区　　分	コード	区　　分	コード
Ｓｔ３９	１０	ＳＭ４９０Ｙ（ＳＭ５０Ｙ）	５０
ＳＳ４００　（ＳＳ４１）	２１	ＳＭ５２０　（ＳＭ５３）	６０
ＳＳ４９０　（ＳＳ５０）	２５	ＳＭ５７０　（ＳＭ５８）	７０
ＳＭ４００　（ＳＭ４１）	３０	ＳＭＡ５７０（ＳＭＡ５８）	７１
ＳＭＡ４００（ＳＭＡ４１）	３１	軽合金	８０
ＳＭ４９０　（ＳＭ５０）	４０	その他	９９
ＳＭ４９０Ａ（ＳＭ５０Ａ）	４１		
ＳＭＡ４９０（ＳＭＡ５０）	４２		

注）

注）（　）内は旧材質名を示す。

〔Ｄ０２９〕　橋 側 歩 道 橋 塗 装 歴

この調査表は、橋側歩道橋の再塗装（塗装履歴）に関するデータを登録するためのものである。

１．一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

○　「D020橋側歩道橋基本」の作成単位毎とする。

○　過去において塗装履歴がある場合、再塗装が行われた場合、上部工は径間毎に下部工は躯体毎に作成する。

２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｇ－１）現旧区分

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

（Ｊ）整理番号３

（Ｎ）補助番号

上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｇ－１）、（Ｈ）、（Ｉ）、（Ｊ）、（Ｎ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（Ｐ）橋梁コード

橋梁コードについては以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Q）分割区分C

該当する橋梁の親表（「D010橋梁基本」）で記入した分割区分コードを記入する。

（Q－１）分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（S）径間又は躯体番号：◆

上部工の場合は、「D027橋側歩道橋径間」で作成されている橋梁分割毎の径間番号と径間分割番号までを記入する。

下部工の場合は、「D026橋側歩道橋下部工」で作成されている躯体番号を記入する。

(記入例)

上部工の場合

○径間分割がない場合

・「D027橋側歩道橋径間」の記入　径間番号　――＞　１
　径間分割番号　－＞　０

・本書式の記入　径間又は躯体番号　―＞　１０

○径間分割がある場合

・「D027橋側歩道橋径間」の記入　径間番号　――＞　２
　径間分割番号　－＞　１

・本書式の記入　径間又は躯体番号　―＞　２１

下部工の場合

・「D026橋側歩道橋下部工」の記入　躯体番号　－＞Ａ１

・本書式の記入　径間又は躯体番号－＞Ａ１

（T）上下部工区分C：◆

上・下部工に関するデータの作成区分について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
上　部　工	1
下　部　工	2

（V）塗装年月日：◆

再塗装を行った年月日を記入する。（年は西暦年で記入）

（記入例）　１９８８年　８月２１日　―――＞　１９８８０８２１

(W) プライマー下塗塗料Ｃ：◆

プライマー及び下塗り塗料について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
長ばく型エッチングプライマー	１１
短ばく型エッチングプライマー	１２
有機質ジングリッチプライマー	１３
無機質ジングリッチプライマー	１４
塩化ゴム系プライマー	１５
エポキシ樹脂プライマー	１６
溶融亜鉛めっき	２０
亜鉛溶射	２１
アルミ溶射	２２
鉛丹さび止めペイント１種	２３
鉛丹さび止めペイント２種	２４
鉛系さび止めペイント１種	２５
鉛系さび止めペイント２種	２６
亜酸化鉛さび止めペイント１種	２７
亜酸化鉛さび止めペイント２種	２８
塩基性クロム酸鉛さび止めペイント	２９
ジアミド鉛さび止めペイント１種	３１
ジアミド鉛さび止めペイント２種	３２
ジンクロメートさび止めペイント１種	３３
ジンクロメートさび止めペイント２種	３４
鉛酸カルシウム下塗り塗料	３５
塩化ゴム系下塗り塗料	４５
エポキシ樹脂下塗り塗料	４６
そ　の　他	５９

(Y) 中塗塗料Ｃ：◆

(AA) 上塗塗料Ｃ：◆

上記（Y）、（AA）については中塗り、上塗り塗料について該当するコードを記入する。

区　　分	コード
長油性フタル酸樹脂中塗り塗料	６１
長油性フタル酸樹脂上塗り塗料	８１
フェノール樹脂系Ｍ１０塗料	７１
エポキシ樹脂系Ｍ１０塗料	７２
アルミニウムペイント中塗り	６２
タールエポキシ樹脂塗料	７３
塩化ゴム中塗り塗料	６５
塩化ゴム上塗り塗料	８５
ポリウレタン樹脂用中塗り塗料	６６
ポリウレタン樹脂上塗り塗料	８６
フッソ樹脂用中塗り塗料	６７
フッソ樹脂上塗り塗料	８７
そ　の　他	９９

(AC) 塗装方法Ｃ

塗装方法について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
ハケ塗り	1
エアレス	2
へ　　ラ	3
そ の 他	9

(AE) 清浄度Ｃ

清浄度について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区　　分（素地調製程度）	コード
１種　さび，旧塗膜を除去し、鋼面を現して清浄にする。	1
２種　　同　上 ただし、くぼみ部分や狭隘部分にはさびや塗膜が残存す。	2
３種　塗膜劣化の著しい部分は、さび旧塗膜を除去して鋼面を現し活膜の部分は、粉化物，汚れを落として清浄にする。	3
４種　活膜上の粉化物，汚れを落として清浄にする。	4

(AG) 本体塗装面積（㎡）：◆

本体に対する再塗装面積を、小数点以下１位まで記入する。

（記入例）　塗装面積　１２５６．７１㎡　―――>　１２５６．７

(AH) 高欄塗装面積（㎡）：◆

高欄に対する再塗装面積を、小数点以下１位まで記入する。

(AI) 塗装色：◆

塗装色について代表的なものを選定し、日本塗装工業会の定めるコードを記入する。

(AJ) 塗替え程度Ｃ

該当する径間（上部工）あるいは下部工の再塗装における塗替えの程度について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
全 部 塗 装	1
一 部 塗 装	2
そ　の　他	9

(AL) 塗装費用（百万円）

データ作成毎に該当する径間（上部工）あるいは下部工に対する再塗装の費用を記入する。

（記入例）　再塗装　１３２０万円　―――>　１３

(AM) 備考

塗料会社名や特記事項があれば５０文字以内の日本語で記入する。

〔Ｄ０２Ａ〕　橋 側 歩 道 橋 補 修 歴

この調査表は、橋側歩道橋の補修・補強及び改良に関するデータを登録するためのものである。

補修・補強とは：現橋の機能維持を目的とする。

改良とは　　：橋側歩道橋の機能向上（幅員の増加など）を目的とする。

１．一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

○　「D020橋側歩道橋基本」の作成単位毎とする。

○　補修・補強及び改良が行われた場合、上部工は径間毎に、下部工は躯体毎に作成する。

２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｇ－１）現旧区分

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

（Ｊ）整理番号３

（Ｎ）補助番号

上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｇ－１）、（Ｈ）、（Ｉ）、（Ｊ）、（Ｎ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（Ｐ）橋梁コード

橋梁コードについては以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Q）分割区分C

該当する橋梁の親表（「D010橋梁基本」）で記入した分割区分コードを記入する。

（Q－１）分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（S）径間又は躯体番号：◆

上部工の場合は、「D027橋側歩道橋径間」で作成されている橋梁分割毎の径間番号と径間分割番号までを記入する。伸縮装置等については、隣接する上部工の中で一番若い径間番号（起点側上部工）を記入する。落橋防止等については、上部工の径間番号を記入する。

下部工の場合は、「D026橋側歩道橋下部工」で作成されている躯体番号を記入する。

(記入例)

<u>上部工の場合</u>

○径間分割がない場合

・「D027橋側歩道橋径間」の記入　径間番号　――＞　１
　径間分割番号　－＞　０

・本書式の記入　径間又は躯体番号　―＞　１０

○径間分割がある場合

・「D027橋側歩道橋径間」の記入　径間番号　――＞　２
　径間分割番号　－＞　１

・本書式の記入　径間又は躯体番号　―＞　２１

<u>下部工の場合</u>

・「D026橋側歩道橋下部工」の記入　躯体番号　－＞Ａ１

・本書式の記入　径間又は躯体番号－＞Ａ１

（T）上下部工区分C

上・下部工に関するデータの作成区分について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
上　部　工	1
下　部　工	2

（V）補修改良年月日：◆

補修または改良を行った年月日を記入する。（年は西暦年で記入）

（記入例）　１９８８年　８月１８日　　―――>　　１９８８０８１８

(W) 補修改良区分Ｃ：◆

補修または改良に関するデータの作成区分について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
補　　修	1
改　　良	2

（Y）主な補修改良内容Ｃ：◆

○　補修の場合は、表－Ａ（１／２）に示す補修内容の区分より代表的な補修内容を選定し、該当するコードを記入する。

○　改良の場合は、表－Ａ（２／２）に示す改良内容の区分より代表的な改良内容を選定し、該当するコードを記入する。

表－Ａ　補修改良内容コード表（１／２）

	区　　分	コード	区　　分	コード
	舗装（その他）	１１００	支承（その他）	１６００
	全体打ち替え	１１０１	支承本体の取替え	１６０１
	全体オーバーレイ	１１０２	付属部材の取替え	１６０２
	部分打ち替え	１１１１	支承座コンクリートの修復	１６１１
	部分オーバーレイ	１１１２	〃　　の打ち替え	１６１２
			支承座モルタルの修復	１６２１
	床版（その他）	１２００	〃　の打ち替え	１６２２
	全長打ち替え	１２０１		
	全長取替え	１２０２	落橋防止装置（その他）	１６３０
	支間中間付近打ち替え	１２１１	落橋防止装置の設置	１６３１
	〃　取替え	１２１２	〃　の修復	１６３２
	支点付近打ち替え	１２２１		
	〃　取替え	１２２２	伸縮装置	１７００
			伸縮装置本体の取替え	１７０１
	上部構造（その他）	１３００	〃　の修復	１７０２
補	主桁・主構局部的修復	１３０１		
	〃　断面補強	１３０２	排水施設（その他）	１８００
	〃　桁増設	１３０３	蓋の取替え	１８０１
	〃　取替え	１３０４	〃の修復	１８０２
	横桁・横構・対傾構	１３１０	桝の取替え	１８１１
修	〃　局部的修復	１３１１	〃の修復	１８１２
	〃　断面補強	１３１２	排水管の取替え	１８２１
	〃　桁増設	１３１３	〃　の修復	１８２２
	〃　取替え	１３１４		
	縦桁・床版	１３２０	高欄（その他）	１９００
内	〃　局部的修復	１３２１	高欄全長の取替え	１９０１
	〃　断面補強	１３２２	〃　全長の修復	１９０２
	〃　桁増設	１３２３	〃　の部分取替え	１９１１
	〃　取替え	１３２４	〃　の部分修復	１９１２
	下部工躯体（その他）	１４００	防護柵（その他）	１９２０
容	橋台パラペット局部的修復	１４０１	防護柵全長の取替え	１９２１
	〃　断面補強	１４０２	〃　全長の修復	１９２２
	橋台前壁局部的修復	１４１１	〃　の部分取替え	１９３１
	〃　断面補強	１４１２	〃　の部分修復	１９３２
	橋台ウィング局部的修復	１４２１		
	〃　断面補強	１４２２	遮音壁（その他）	１９４０
	橋脚　梁　局部的修復	１４３１	遮音壁全長の取替え	１９４１
	〃　断面補強	１４３２	〃　全長の修復	１９４２
	橋脚　柱　局部的修復	１４４１	〃　の部分取替え	１９５１
	〃　断面補強	１４４２	〃　の部分修復	１９５２
	下部工基礎（その他）	１５００	遮光壁（その他）	１９６０
	橋台フーチング拡大	１５０１	遮光壁全長の取替え	１９６１
	〃　増杭	１５０２	〃　全長の修復	１９６２
	〃　根固め工	１５０３	〃　の部分取替え	１９７１
	〃　周辺地盤の改良	１５０４	〃　の部分修復	１９７２
	橋脚フーチング拡大	１５１１		
	〃　増杭	１５１２	補修その他	１９９９
	〃　根固め工	１５１３		
	〃　周辺地盤の改良	１５１４		

表－Ａ　補修改良内容コード表（２／２）

	区　　分	コード
改良内容	橋梁の拡張	
	・主桁増設による拡幅	２１０１
	・ブラケット等による歩道部等の拡幅	２１０２
	・隅きりの設置に伴う拡幅	２１０３
	・その他	２１９９
	橋梁の延伸	
	・橋梁の延伸による径間の増設	２２０１
	・その他	２２９９
	別橋梁の架設	
	・上下線分離等を目的とした車道用の別橋の架設（当初計画有り）	２３０１
	・上下線分離等を目的とした車道用の別橋の架設（当初計画無し）	２３０２
	・歩行者、自転車用の別橋の架設（現況（の下部工に添架されるものも含む）	２３０３
	・その他	２３９９
	橋梁の架替	
	・全橋架替	２４０１
	・一部架替	２４０２
	その他	
	・橋側歩道橋の取付部の改良（スローブ等の付加）	２９０１
	・化粧板設置や高欄取替えなどによる美観の向上	２９０２
	・改良その他	２９９９

(AA) 床版補修補強面積(㎡)

床版の補修・補強を行った場合について、該当する径間における床版補修・補強面積を小数点以下１位まで記入する。なお、改良の場合は‘＊’を記入する。

（記入例）　補強面積　Ａ＝３２８．６㎡　――＞　　３２８．６

(AB) 前回補修年月日：◆

再補修の場合についてのみ前回の補修日を記入する。なお、改良の場合は‘＊’を記入する。

(年は西暦年で記入)

（記入例）　１９８６年　５月　７日　―――＞　　１９８６０５０７

(AC) 工事費用（百万円）

該当する径間（上部工）または躯体（下部工）について、補修・補強、改良の工事費を記入する。

（記入例）　工事費用　１５３２０万円　――＞　１５３

(AD) 施工会社

施工会社名を、１０文字以内の日本語で入力する。

(AE) 備考

補修の要因やその他特記事項があれば日本語５０文字以内で記入する。

〔Ｄ０２Ｄ〕　橋 側 歩 道 橋 点 検 補 修

この調査表は、橋側歩道橋の補修・補強部材に関するデータを登録するためのものである。なお、この書式に関するデータは定期点検データの現存する橋側歩道橋の場合に作成するものとする。

１．一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

○　「D020橋側歩道橋基本」の作成単位毎とする。

○　補修・補強を行った径間内における部材毎に作成する。

２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｇ－１）現旧区分

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

（Ｊ）整理番号３

（Ｎ）補助番号

上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｇ－１）、（Ｈ）、（Ｉ）、（Ｊ）、（Ｎ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（Ｐ）橋梁コード

橋梁コードについては以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Ｑ）分割区分Ｃ

該当する橋梁の親表（「D010橋梁基本」）で記入した分割区分コードを記入する。

（Ｑ－１）分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。

・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

（Ｓ）径間番号

「D027橋側歩道橋径間」で作成されている橋側歩道橋分割毎の径間番号を記入する。

（Ｔ）径間分割番号

「D027橋側歩道橋径間」で作成されている橋側歩道橋分割毎の径間分割番号を記入する。

（Ｕ）補修年月日

補修・補強を行った年月日を記入する。（年は西暦年で記入）

（記入例）　１９８８年　８月１８日　―――＞　１９８８０８１８

（Ｖ）部材区分Ｃ

表－Ａに示す部材区分表より該当する記号を記入する。

（Ｘ）部材番号

部材番号は、橋梁点検要領（案）に基づく部材番号を記入する。

（Ｙ）補修補強内容Ｃ

各部材の補修内容については、表－Ｂに示す補修工法コード表より、該当するコードを記入する。

表－Ａ　部材区分表

区　　分	コード
鋼主桁	ＭＳ
コンクリート主桁	ＭＣ
鋼横桁	ＣＳ
コンクリート横桁	ＣＣ
鋼縦桁	ＳＳ
コンクリート縦桁	ＳＣ
対傾構	ＳＷ
横構	ＬＢ
鋼床版	ＤＳ
コンクリート床版	ＤＣ
鋼橋脚	ＰＳ
コンクリート橋脚	ＰＣ
橋台	ＡＣ
基礎	ＦＯ
鋼支承	ＢＳ
ゴム支承	ＢＲ
モルタル	ＢＭ
アンカーボルト	ＢＡ
鋼製高欄	ＥＳ
コンクリート高欄	ＥＣ
鋼製防護柵	ＲＳ
コンクリート製防護柵	ＲＣ
鋼地覆	ＦＳ
コンクリート地覆	ＦＣ
鋼製中央分離帯	ＮＳ
コンクリート中央分離帯	ＮＣ
縁石	ＣＵ
舗装	ＰＭ
鋼製伸縮装置	ＪＳ
ゴム製伸縮装置	ＪＲ
排水施設	ＤＲ
鋼製落橋防止装置	ＴＳ
コンクリート製落橋防止装置	ＴＣ
点検施設	ＡＬ
遮音施設	ＳＯ
照明施設	ＩＬ
標識	ＩＮ
袖擁壁	ＷＷ
添架物	ＵＴ
トラス橋の弦材 アーチ橋のアーチ部材	ＸＸ ＸＹ ＹＹ ＺＺ ＸＺ ＹＺ

表－B　補修工法コード表

区　　分	コード	区　　分	コード
新規設置(橋梁付属物・支承含)	001	打換え工法(構造部材)	031
修復工法(橋梁付属物・支承含)	002	打換え工法（プレキャスト床版へ）	032
取替工法(橋梁付属物・支承含)	003	取替工法(構造部材)	033
打換え工法(舗装)	004	上面コンクリート増厚工法	034
矯正工法	005	下面コンクリート増厚工法	035
ストップホール工法	006	RC巻立工法	036
添設補強工法	007	壁増設	037
溶接補修工法	008	支持点増設工法	038
再塗装	009	鋼板巻立工法	039
補強材工法	010	鋼板接着工法	040
桁増設工法	011	炭素繊維シート巻立工法	041
縦桁増設工法	012	炭素繊維シート接着工法	042
添接板高力ボルト締付工法	013	アラミド繊維シート巻立工法	043
支持工法	014	アラミド繊維シート接着工法	044
ひびわれ注入工法	015	外ケーブル工法	045
U(V)カット(充填)工法	016	内ケーブル工法	046
アンカー工法（ひび割れ縫い合わせ）	017	地中壁・梁増設工法	047
断面修復工法(打換え工法)	018	杭・フーチング増設工法	048
断面修復工法(吹付工法)	019	地盤改良工法	049
断面修復工法(パッチング工法)	020	鋼矢板締切工法	050
断面修復工法(プレパックド工法)	021	根固め工法	051
表面保護工法(表面被覆工法)	022	グランドアンカー工法	052
表面保護工法(表面処理工法)	023	拡幅	053
表面保護工法(埋設型枠工法)	024	架替え	054
床版防水の設置工	025	その他の工法	999
防錆工法	026		
電気化学的補修（脱塩工法）	027		
電気化学的補修（再アルカリ化工法）	028		
電気防食工法	029		
打継ぎ工法(構造部材)	030		

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D020：橋側歩道橋（基本諸元）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分Ｃ	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整Ｃ	半角2文字			○
事務所Ｃ	半角2文字			○
出張所Ｃ	半角2文字			○
路線	9999		○	○
現旧区分Ｃ	半角1文字		○	○
整理番号１	半角8文字		○	○
整理番号２	半角4文字		○	○
整理番号３	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
橋梁コード	半角4文字		○	○
分割区分Ｃ	半角1文字		○	○
施設完成年度	999	和暦		○
施設改修年度	999	和暦	○	○
名称	全角20文字		○	○
橋梁種別Ｃ	半角1文字		○	○
架設竣工年	1999	西暦	○	○
適用示方書Ｃ	半角3文字		○	○
総径間数	999		○	○
昇降形式Ｃ	半角1文字			○
事業区分Ｃ	半角1文字		○	○
百米標自	999.9	ｋｍ	○	○
距離自	9999	m	○	○
百米標至	999.9	ｋｍ	○	○
距離至	9999	m	○	○
橋長	9999.99	m	○	○
橋面積	99999.9	ｍ２	○	○
平面形状Ｃ	半角1文字		○	○
落下物防止柵高さ	9.99	m	○	○
落下物防止柵延長	999.99	m	○	○
点検施設Ｃ	半角1文字		○	○
排水施設Ｃ	半角1文字		○	○
床版防水種別Ｃ	半角1文字			○
床版防水範囲Ｃ	半角1文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D020：橋側歩道橋（基本諸元）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
水平震度	9.99	ｋｈ		○
設計活荷重Ｃ	半角2文字			○
通行制限Ｃ	半角1文字			○
起点側市区町村Ｃ	半角5文字		○	○
起点側検査数字	半角1文字		○	○
起点側所在地	全角30文字		○	○
終点側市区町村Ｃ	半角5文字		○	○
終点側検査数字	半角1文字		○	○
終点側所在地	全角30文字		○	○
他域橋長	9999.99	ｍ	○	○
起終点区分Ｃ	半角1文字		○	○
橋梁接続起点側市区町村Ｃ	半角5文字		○	○
橋梁接続起点側検査数字	半角1文字		○	○
橋梁接続起点側橋梁種別Ｃ	半角1文字		○	○
橋梁接続起点側橋梁コード	半角4文字		○	○
橋梁接続起点側分割番号	半角1文字		○	○
橋梁接続終点側市区町村Ｃ	半角5文字		○	○
橋梁接続終点側検査数字	半角1文字		○	○
橋梁接続終点側橋梁種別Ｃ	半角1文字		○	○
橋梁接続終点側橋梁コード	半角4文字		○	○
橋梁接続終点側分割番号	半角1文字		○	○
塩害地域区分Ｃ	半角2文字			○
塩害地域距離	99.9	ｋｍ		○
照明有無Ｃ	半角1文字			○
消雪パイプ有無Ｃ	半角1文字			○
ロードヒート有無Ｃ	半角1文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D021：橋側歩道橋（幅員構成）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分C	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号１	半角8文字		○	○
整理番号２	半角4文字		○	○
整理番号３	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
橋梁コード	半角4文字			○
分割区分C	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
全幅員	99.99	m	○	○
有効幅員	99.99	m	○	○
左側車線歩道幅	99.99	m	○	○
右側車線歩道幅	99.99	m	○	○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D022：橋側歩道橋（高欄・防護柵）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分C	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号１	半角8文字		○	○
整理番号２	半角4文字		○	○
整理番号３	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
橋梁コード	半角4文字			○
分割区分C	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
高欄防護柵設置場所C	半角1文字			○
高欄防護柵別C	半角1文字			○
高欄防護柵材質材料C	半角1文字		○	○
高欄防護柵高さ	9.99	m	○	○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D023：橋側歩道橋（交差状況）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分Ｃ	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整Ｃ	半角2文字			○
事務所Ｃ	半角2文字			○
出張所Ｃ	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分Ｃ	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号１	半角8文字			○
整理番号２	半角4文字			○
橋梁コード	半角4文字			○
分割区分Ｃ	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
架橋状況Ｃ	半角1文字			○
協議有無Ｃ	半角1文字			○
交差物名称	全角10文字			○
協議機関	全角10文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D024：橋側歩道橋（添架物）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分Ｃ	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整Ｃ	半角2文字			○
事務所Ｃ	半角2文字			○
出張所Ｃ	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分Ｃ	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号１	半角8文字		○	○
整理番号２	半角4文字		○	○
整理番号３	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
橋梁コード	半角4文字			○
分割区分Ｃ	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
添架物区分Ｃ	半角1文字		○	○
添架物種別Ｃ	半角2文字		○	○
添架物寸法	9999		○	○
添架物重量	999	Kgf/m	○	○
添架物管理者名	全角10文字		○	○
占用物件本数	999		○	○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D025：橋側歩道橋（上部工）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分Ｃ	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整Ｃ	半角2文字			○
事務所Ｃ	半角2文字			○
出張所Ｃ	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分Ｃ	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号１	半角8文字		○	○
整理番号２	半角4文字		○	○
整理番号３	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
橋梁コード	半角4文字			○
分割区分Ｃ	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
構造体番号	半角3文字		○	○
起点側伸縮装置形式Ｃ	半角2文字		○	○
終点側伸縮装置形式Ｃ	半角2文字		○	○
材料区分Ｃ	半角1文字		○	○
桁形式区分Ｃ	半角1文字		○	○
構造形式Ｃ	半角3文字		○	○
路面位置Ｃ	半角1文字		○	○
主桁主構本数	999		○	○
主桁主構高さ	99.99	m	○	○
主桁主構間隔	99.99	m	○	○
横桁間隔	99.99	m		○
床版材料Ｃ	半角1文字		○	○
床版種類使用形式Ｃ	半角2文字			○
床版橋軸直角方向支間	9.99	m		○
床版厚さ	99.9	ｃｍ		○
架設年月日	19990101	西暦	○	○
鋼上部工材質Ｃ	半角2文字			○
鋼上部工表面処理Ｃ	半角1文字		○	○
塗装年月日	19990101	西暦	○	○
プライマー下塗塗料Ｃ	半角2文字		○	○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D025：橋側歩道橋（上部工）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
中塗塗料Ｃ	半角2文字		○	○
上塗塗料Ｃ	半角2文字		○	○
塗装方法Ｃ	半角1文字		○	○
工場塗装面積	99999.9	ｍ２	○	○
本体塗装面積	99999.9	ｍ２	○	○
高欄塗装面積	99999.9	ｍ２	○	○
塗装色	半角9文字		○	○
塗装会社	全角10文字		○	○
ＰＣ鋼材材質Ｃ	半角2文字			○
ＰＣ鋼材緊張工法Ｃ	半角2文字			○
主桁コンクリート強度	999	kg／cm２		○
主桁打設方法Ｃ	半角1文字			○
主桁セメント種類Ｃ	半角1文字			○
主桁細骨材種類Ｃ	半角1文字			○
主桁粗骨材種類Ｃ	半角1文字			○
主桁粗骨材寸法	999	ｍｍ		○
主桁指定スランプ	99.9	ｃｍ		○
主桁混和剤１Ｃ	半角2文字			○
主桁混和剤２Ｃ	半角2文字			○
主桁混和剤３Ｃ	半角2文字			○
主桁混和剤４Ｃ	半角2文字			○
主桁混和剤５Ｃ	半角2文字			○
主桁アルカリ骨材対策１Ｃ	半角1文字			○
主桁アルカリ骨材対策２Ｃ	半角1文字			○
主桁アルカリ骨材対策３Ｃ	半角1文字			○
主桁アルカリ骨材対策４Ｃ	半角1文字			○
床版コンクリート強度	999	kg／cm２		○
床版打設方法Ｃ	半角1文字			○
床版セメント種類Ｃ	半角1文字			○
床版細骨材種類Ｃ	半角1文字			○
床版粗骨材種類Ｃ	半角1文字			○
床版粗骨材寸法	999	ｍｍ		○
床版指定スランプ	99.9	ｃｍ		○
床版混和剤１Ｃ	半角2文字			○
床版混和剤２Ｃ	半角2文字			○
床版混和剤３Ｃ	半角2文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D025：橋側歩道橋（上部工）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
床版混和剤４Ｃ	半角2文字			○
床版混和剤５Ｃ	半角2文字			○
床版アルカリ骨材対策１Ｃ	半角1文字			○
床版アルカリ骨材対策２Ｃ	半角1文字			○
床版アルカリ骨材対策３Ｃ	半角1文字			○
床版アルカリ骨材対策４Ｃ	半角1文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D026：橋側歩道橋（下部工）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分Ｃ	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整Ｃ	半角2文字			○
事務所Ｃ	半角2文字			○
出張所Ｃ	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分Ｃ	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号１	半角8文字		○	○
整理番号２	半角4文字		○	○
整理番号３	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
橋梁コード	半角4文字			○
分割区分Ｃ	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
躯体番号	半角3文字		○	○
完成年月日	19990101	西暦		○
橋台橋脚構造形式Ｃ	半角2文字		○	○
橋台橋脚高さ	999.99	m	○	○
基礎形式Ｃ	半角1文字		○	○
塗装年月日	19990101	西暦	○	○
プライマー下塗塗料Ｃ	半角2文字		○	○
中塗塗料Ｃ	半角2文字		○	○
上塗塗料Ｃ	半角2文字		○	○
塗装方法Ｃ	半角1文字		○	○
工場塗装面積	99999.9	ｍ２	○	○
本体塗装面積	99999.9	ｍ２	○	○
塗装色	半角9文字		○	○
塗装会社	全角10文字		○	○
ＰＣ鋼材材質Ｃ	半角2文字			○
ＰＣ鋼材緊張工法Ｃ	半角2文字			○
躯体コンクリート強度	999	kg／cm２	○	○
躯体打設方法Ｃ	半角1文字			○
躯体セメント種類Ｃ	半角1文字			○
躯体細骨材種類Ｃ	半角1文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D026：橋側歩道橋（下部工）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
躯体粗骨材種類Ｃ	半角1文字			○
躯体粗骨材寸法	999	ｍｍ		○
躯体指定スランプ	99.9	ｃｍ		○
躯体混和剤１Ｃ	半角2文字			○
躯体混和剤２Ｃ	半角2文字			○
躯体混和剤３Ｃ	半角2文字			○
躯体混和剤４Ｃ	半角2文字			○
躯体混和剤５Ｃ	半角2文字			○
躯体アルカリ骨材対策１Ｃ	半角1文字			○
躯体アルカリ骨材対策２Ｃ	半角1文字			○
躯体アルカリ骨材対策３Ｃ	半角1文字			○
躯体アルカリ骨材対策４Ｃ	半角1文字			○
基礎コンクリート強度	999	kg／cm2		○
基礎打設方法Ｃ	半角1文字			○
基礎セメント種類Ｃ	半角1文字			○
基礎細骨材種類Ｃ	半角1文字			○
基礎粗骨材種類Ｃ	半角1文字			○
基礎粗骨材寸法	999	ｍｍ		○
基礎指定スランプ	99.9	ｃｍ		○
基礎混和剤１Ｃ	半角2文字			○
基礎混和剤２Ｃ	半角2文字			○
基礎混和剤３Ｃ	半角2文字			○
基礎混和剤４Ｃ	半角2文字			○
基礎混和剤５Ｃ	半角2文字			○
基礎アルカリ骨材対策１Ｃ	半角1文字			○
基礎アルカリ骨材対策２Ｃ	半角1文字			○
基礎アルカリ骨材対策３Ｃ	半角1文字			○
基礎アルカリ骨材対策４Ｃ	半角1文字			○
設計震度地盤区分Ｃ	半角1文字			○
設計震度	9.99			○
躯体鋼材質Ｃ	半角2文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D027：橋側歩道橋（径間）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分Ｃ	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整Ｃ	半角2文字			○
事務所Ｃ	半角2文字			○
出張所Ｃ	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分Ｃ	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号１	半角8文字		○	○
整理番号２	半角4文字		○	○
整理番号３	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
橋梁コード	半角4文字			○
分割区分Ｃ	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
構造体番号	半角3文字		○	○
径間番号	半角2文字		○	○
径間分割番号	半角1文字		○	○
支間番号	半角1文字		○	○
支間長	999.999	m	○	○
起点側支承種類Ｃ	半角2文字		○	○
起点側落橋防止１Ｃ	半角1文字		○	○
起点側落橋防止２Ｃ	半角1文字		○	○
起点側落橋防止３Ｃ	半角1文字		○	○
終点側支承種類Ｃ	半角2文字		○	○
終点側落橋防止１Ｃ	半角1文字		○	○
終点側落橋防止２Ｃ	半角1文字		○	○
終点側落橋防止３Ｃ	半角1文字		○	○
起点側躯体番号１	半角3文字		○	○
起点側躯体番号２	半角3文字		○	○
終点側躯体番号１	半角3文字		○	○
終点側躯体番号２	半角3文字		○	○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D029：橋側歩道橋（塗装歴）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分Ｃ	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整Ｃ	半角2文字			○
事務所Ｃ	半角2文字			○
出張所Ｃ	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分Ｃ	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号１	半角8文字		○	○
整理番号２	半角4文字		○	○
整理番号３	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
橋梁コード	半角4文字			○
分割区分Ｃ	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
径間又は躯体番号	半角3文字		○	○
上下部工区分Ｃ	半角1文字		○	○
塗装年月日	19990101	西暦	○	○
プライマー下塗塗料Ｃ	半角2文字		○	○
中塗塗料Ｃ	半角2文字		○	○
上塗塗料Ｃ	半角2文字		○	○
塗装方法Ｃ	半角1文字			○
清浄度Ｃ	半角1文字			○
本体塗装面積	99999.9	ｍ２	○	○
高欄塗装面積	99999.9	ｍ２	○	○
塗装色	半角9文字		○	○
塗替え程度Ｃ	半角1文字			○
塗装費用Ｃ	999999	百万円		○
備考	全角50文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D02A：橋側歩道橋（補修歴）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分Ｃ	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整Ｃ	半角2文字			○
事務所Ｃ	半角2文字			○
出張所Ｃ	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分Ｃ	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号１	半角8文字		○	○
整理番号２	半角4文字		○	○
整理番号３	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
橋梁コード	半角4文字			○
分割区分Ｃ	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
径間又は躯体番号	半角4文字		○	○
上下部工区分Ｃ	半角1文字			○
補修改良年月日	19990101	西暦	○	○
補修改良区分Ｃ	半角1文字		○	○
主な補修改良内容Ｃ	半角4文字		○	○
床版補修補強面積	99999.9	ｍ２		○
前回補修年月日	19990101	西暦	○	○
工事費用	999999	百万円		○
施工会社	全角10文字			○
備考	全角50文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D02D：橋側歩道橋（点検補修）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分Ｃ	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整Ｃ	半角2文字			○
事務所Ｃ	半角2文字			○
出張所Ｃ	半角2文字			○
路線	9999		○	○
現旧区分Ｃ	半角1文字		○	○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号１	半角8文字		○	○
整理番号２	半角4文字		○	○
整理番号３	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
橋梁コード	半角4文字		○	○
分割区分Ｃ	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
径間番号	半角2文字		○	○
径間分割番号	半角1文字		○	○
補修年月日	99999999	西暦	○	○
部材区分Ｃ	半角2文字		○	○
部材番号	半角2文字		○	○
補修補強内容Ｃ	半角3文字		○	○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照